W.ASON
HQ
1.4
J25

Feb. 1901
no. 513

明治三十二年五月十四日第三種郵便物認可

明治三十四年二月廿五日

女學雜誌

第五百十三號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第五百拾參號目次

◎社說
國士の生計
李少荃逝けり

◎女學
女學の時論
◎女服改良論◎女子体育論◎女子大學論
婦人の修養に就て（中）……青柳有美
寄宿舍取締類別表（承前）

◎瀧頭餘感
大終有望……新井奥邃
或問……同人
義和團贊論……青柳猛

◎藻鹽草
樂人ロッシニが事……無草庵

◎評論
福澤先生の丁丑公論

◎雜錄
博士新渡戸稻造氏の演戲（其一）

◎寄書
◎山中獨語（迂拙翁）◎所感（河越昭子）

◎時報

◎隨感

女學雜誌　每月二回發行

●女學雜誌定價表●

前金	廣告料	送金
壹冊定價 拾錢 半年分定價 壹圓拾錢 一年分定價 貳圓 （內國無郵稅） ◎代金は總して前金にて御注文ありたし年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事但し其節は總て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事是れ甚に不本意乍ら計算の煩はしき不得止左樣仕候間かれて御承知被下度候	一行（廿二字詰）一回 前金拾錢 同 三回以上 一割引 同 六回以上 二割引	送金は東京牛込郵便支局に宛て小爲替にせられたし○郵便切手にて送らるゝ人は總べて一割增にて計算せられたし

明治三十四年二月廿四日印刷
明治三十四年二月廿五日發行
發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
（電話番町十九番）

中島湘煙女史序（寫眞版）
津田梅子女史英文序
三宅花圃女史題詠
巖本善治君跋
中村不折君畫
櫻井鷗村著

現代 そんな氣質

袖珍頗美本表紙口繪
石版色刷　實價廿五錢

多大の魔力を有し知り易きが如くにして而かも大に覺り難きものは女性なり。本書はこれ特殊の眼光を以て、婦情及家政の微を穿ち、幽を極めんとするもの、優に當代の異彩文字たり。女流は之を見て首肯する處あるべく、男性は以て大に學ぶ處あるべし。

《再版既成》

發兌元　文武堂
發賣元　博文館

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第五百拾參號

明治三十四年二月十日發兌

社説

李少荃

國は其の領土の大なるによつて、大なるにあらず、其の歴史の久しきによつて久しきを得るにあらず。物產是れ無上の國寶か、風景これ最上の天與なるか、曰く否な。領土大なりとも奪はるゝことあり、歷史久しきとも破らるゝことあり、物產多しと雖ども損することあり、風景美なりと雖も、悲觀の時、それ將た如何にせん。嗚呼、奪はる可らず、破る可らず、損す可らず、絶望せしむ可らざるは、夫れ只だ人傑か。豪雄英物乃はち是れ無上最大の國寶なり。

國家逆境に瀕せりとも何んかあらん、逆境にあらずんば豪英を誘なふこと能はざるなり。國家小なりとも何んかあらん、小ならずんば大にすること能はざる也。敵國外患あるは友邦を得るの端、財政大に困するは富を致すの素養なり。人間苟しくも英氣あらば、天地間の事、何の時に喪心絶望するを要せんや。國家多事と言ひて嗟嘆するの輩は、早く死するに若かず、既に活くるにあらざれば也。

左れば、東洋大難の機勢の故に未だ曾て大いに憂ひたることあらず。況んや、支那帝國の事、難変も至ると云ふと雖ども、尙且つ四百餘州、人傑なきにあらざるを知つて、未だ甚しく痛心することあらざりし也。此の人傑誰とかなす、吾人は其の第一位に立つべくとして李少荃を推したり。

李氏や大いに稱えらるゝことあり、亦大いに落さるることあり。我邦一派の論評、たゞ某侯を罵らんとするの餘勢の故に之を揚ぐるにあらざれば、則はち他は大抵嘲侮して信ぜず。其の本領を精言するものに至ては、太はだ稀なりき。

吾人は夙に彼を信重し、彼あるによりて支那を重しとし、反

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つて、支那晩近の困難を見て輕しとせし也。彼、漢人にして先覺と共もに滿人政府を助け、公義早く立てり。烈士ゴルドンの熱諫を斥ぞけたる時、早く大忠を定め、魯國の遠謀に第一の信頼を與えしとき高く巨策を建たり。彼の如き大志あるものは、姦とせられ、佞とせられ、俗とせられ、貪とせらるゝともあるもの也。左れど彼が終始一貫したる大綱は大率ね徹し、支那建國以來、古しえより未だ曾てあらざる大舞臺に於て、兎に角、今日迄で其の帝統を維持したり。而して今や忽焉として逝けり。

彼夙に門下の養成に力めたり、門下幾多の英才を生ず。惟ふに遠からずして其の衣鉢を分繼するもの二三はあるべし。然りと雖ども、日沒して其の翌る日の次第に上り、遂に天心に達する迄には、先づ必らずや、夜の暗きとあり、朝たの露深きとあるべき也。第二の李少荃たるもの、其の用いらるゝに至るや、尙ほ遠い哉。

同胞屢ば言はく、唇亡びて齒寒しと。吾人は左程にも此の警句を思はざりし也。何んとなれば、李少荃尙ほ舌ありと聞けるが爲め也。而して、今や彼逝けり。吾人初めて齒頭の寒風に觸るゝを思ふ。

之を告ぐ、東方所々の有爲なる青年國士。公等が責務今や大いに加はれり。庶幾はくば、腰に帶して立ち、劍を磨して行け。難の來るや、近し、早し、大なれば也。

二月一日、天津電信初めて着するの時、筆す。

國士の生計

◉餓えて死ぬものは少なく、食ひ過ぎて死ぬものが多い。寒くて死ぬものも少なく、餘計に着過ぎて風を引き、夫から死ぬものが存外に多い。これほど衣食に究するといふとは無い筈であるのに、實際に究するものが多いと云は何故である。之は衣食足らずして死に至るからと言つて究するのではなく、衣食を過して遂に死に至るの道に進めないからと云つて究するのである。左すれば、其の究するは、即はち助かるので、本來は喜こぶべきであるが、夫にも關せず矢張り之を悲しむもののあるは何故である乎。他なし、必竟は、人間の痴態である。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◉衣食のつぎには、住居であるが、之も何程大きくしたからとて、人一人の占め得べき區域は小サナものである。大厦高樓の門内から、二頭引の馬車をきしらせ、意氣揚々として出て來る人などがあるから、ドンナ大人物かと車中を窺がつて見ると、取るにも足らぬ小人である。彼の身躰は一疊一ぱいにも足らぬ、其威光は八疊一間の外にも通らぬ、而して大キナ家を持たねばならぬのは、何の必要がある乎。

◉無論、コケヲドしには樣々のつまらぬものも入用であらふから、誰も彼も哲人達士の眞似は出來ぬ、また爲る必要もなからふが、苟しくも國士たらんとするものなどが、衣食住の事に奢るなどは、殆んど其意を了解するヿが出來ぬ。

◉先づ、何の爲に左樣な奢りが入用であるの乎。食物は滋養の爲だと言はれる乎、實際、滋食の爲めに飲食しては居られぬ、反つて身の害になる樣な過度の飲食ばかりを仕て居る。衣服は、何の飾になるか、衣服を飾つた爲に如何なる種類の人が感服するか、其標準を一考すると直きに合點がいく。住居に至つては、殊に其の必要がない、東奔西奔せねばならぬ、吾家は國家である、吾庭は山川である、家で秘密會議が出來るでなし、多くの客を招けるでなし、大抵、實用の區域が定まつて居る、別段大きな構えが入り用な筈はないのである。

◉或は言ふ人もあらふ、萬事萬物、左樣な實用主義のみの勘定ではない、所詮は人の趣味によるのであると言はれるであらふ。然し、趣味ならば高尚なる趣味にして貰いたいものである。無關係の一私人とは違ひ、國士を以て任ずるものは、風化影響の責任を負つて居る。衣食住に奢るなどの趣味を以て自から樂しむとは、思はざるも亦た甚だしいヿである。

◉衣食住に奢つたからとて、大したヿがないと言ふ人もあらふが、之は餘程の間違ひである。成程、何の事業もせず、隱居や、風流に身を任せた世すて人などが奢るのは、大した關係はない、其人一人きりの影響である。然し、苟しくも事業に關し、他の諸人の上に影響あるものに至ては、吾一人の奢に若干の餘分を費やすの一事が、引いてどれほど多くの損を來すか、殆んど知れぬほどのものである。例せば、一會社の社長もしくは、一團結の棟梁たるものが、其身先づ奢れば、他の關係者は必らず多少化せらるるに相違あるまい、たとひ化

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四

せられぬとしても、上に相應の生計を立てて行ねばならぬ。左すれば、之丈けの生計を立てさせる丈の高い報酬は何處から出ると云はゞ、外でない、つまりは其の關係の事業から出ねばなるまい。斯して上より下まで、其の生計を高くし、其の高くした丈の維持を報酬の中に込めて、而して結果は何になつたかと言へば、お互ひが寄つてたかつて同もに吝つて仕舞つたと云ふ丈のことである。然し尚ほ此丈のことには止まらぬ其の仲間の子孫も之が關係者も皆な風を爲すので、即はち一國の吝の元となるのである。加之、自分も一度、吝のくせが附いたからは容易に直らぬ、一生の損となるのである。斯樣につまらぬ損と害と斗りを與へる源となつて、何が樂しみである乎。殆んど譯の分らぬことである。

◉凡そ、生計は上に上があるもので、而して一度上げた丈はなか〳〵下げられぬものである。夫故、借金は收入の少ない時に出來るものでない、收入が少し殖えたときに少し出來、此の少し出來たものが積つて多くになり、又一度殖えた收入が減つた時に俄に余計になるものである。夫故、初めから收入の殖えぬ方が反つて樂であると云ふが經濟の常である。日本の財政を見ても、お互ひの經驗を見ても、それは直きに分ることである。

◉夫故、名士と云ふものは、容易に生計を上る筈のものでない。假令ひ官位が高くなり、收入が殖えたからとて、苟くも身を挺して事に當る以上は、何時いかなる時に元の身になるかも知れぬ、否な、何時いかなる時どころではない、明日にも左樣になるかも知れぬと覺悟して、些さかも地位の進んだことなどを賴みにしてはならぬ。之を賴みにするから、カヂリつき主義だの、私だの、黨を組んで公けを害することなどが起るのである。

◉凡そ名士公人の出處進退といふものは、公々明々なるもので、隨つて收入がどれ丈け殖たかと云ふことも、直きに人に分ることである。左すれば、人に飾る必要もなく、亦飾ことも出來ぬ。商人などが、余計にもうかつた樣にして見せて、一種の商略をする時とは全く違ふ、之すら真商は爲ぬことである。左すれば、其仕事に不都合のなき限りは、元の儘の生計で依然仕事を取るが宜しい。極々必要だけの準備をしても、其他虛飾、吝、身を樂にするなどの設備は一切止るが宜しい、左な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くば、其仕事を本當に爲る事も出來ず、又立派にして長くつゞけることも出來ない。

●然るに、今の國士は、其居宅の壯大と、其衣食の奢とを示して、僅かに品格を維持せんとして居る。然し、國家の財政が困る〳〵と言ひ乍ら、我家の財政を豐かに見せるは、恥辱ではない乎。日本の山は裸で、物産は少ない、民は貧しく、家ごとに困つて居るものがある時に、國士たるものが衣服を重ね、食物を集め、身ひとり樂に見せて夫で誇らんとするは抑そも誰に向つて誇らんとするのである。

●國士の生計問題は、小問題の樣で實は大問題である。之よりして其人一身に種々の關係を生じ、又一國社會の上にも至大の影響を來すものである。

●よく此處の道理を辨まえ、國士の妻たるものは、深く覺悟して、其生計を質素にせねばなりませぬ。

●西郷南洲は、近衞大將で居た頃。手桶からヒヤ素麵を食ふ位ひ。大久保甲東は死せし時、百圓の金もなく。勝海舟の家は半ば破れて、平生、絹物などを着られたるとはない。夫でも皆な國家の大事は十分に負擔して居られたものである。

女學

女學時論

女服改良論

女服の改良せざる可らざるとは、一代の輿論となれり。是れ素より當然なるとなれども、如何にして改良の實を擧んかに關しては、別に一種の略なくんばある可らず。凡そ衣服の新らしきものは、單に其の美なるが故、其の便利なるが故、其の衞生なるが故、其の安價なるが故等、其の唯一の目的に適ふの故によりて能く行はれ得るものにあらず。惣べて此等の諸目的に適ひ、而して后ち尙ほ行はらると行られざると、只だ勢に由る也。今の改良案を聞くに、單に衞生もしくは便利等の上より着目すれども、凡そ便利不便利の點に關しては、其の慣れたるものほど便利なるはなし、單に推理の說によりて新なる便利を說くとも遂に効力あるとなし。衞生に於ても

其の慣れて一二の不衛生なるは、慣れずして全く衛生的なるに優れり、女子には其の慣れたる衣服を以て尤とも衛生なりとすれば也。又袴の說われども、之は平生の着用として行はれしめんと頗ぶる難し。學生の用もしくは式禮の用としてのみ只一部に行はるゝを以て止まんか。吾人は信ず、其の尤とも行はれ易く且つ行なつて益あるべき小改良の方案は、胴着もしくは蹴出しの仕立を廻りとなすと、外國のペテコート風とし、脛の露はるゝを防ぐにあるなり、蓋し古の蹴出は元と脛の露はれざる爲に着けたり、今反つて其實を失ふ。此他の大改良案は、家屋の結構の改まると、女子の仕事の大に變ずる迄は、到底行はれ得べからずと信ず。

女子體育論

女子躰育論の盛んなる、大いに賀すべし。女子躰育の爲には其論の盛んなるほど有効有力なる者なければ也。蓋し男子の爲には、躰育の方法を論ず、女子の爲には躰育の必要を論ずこれ方今の時勢の要求なり。女子もし身躰を强壯にせば、其の美と、其婉容とを失なはんかと恐れ、女子もし活潑に運動

せば、其の女德とたしなみとを失なはんかと恐るる如き、一種暗裏の掛念こそ、女子躰育の爲の最大有力なる敵對なれ。故に、今の女學の爲には、先づ以て盛んなる女子躰育論あるを以て最良とし、隨つて種々の躰育方案の議論あるを以て好しとす。其の論かしましきと彌々盛なれば彌よ可なり。何んぞ必ずしも速かに其の論義を決定することを願はんや。

女子大學論

女子大學敎育の可否は一代の議論なり、歐米に於て之あるや久し、我國に於ても亦た大いに鬪かはずんばある可らざる也但し、今四月より彌よ開校すべきこととなりしと聞く日本女子大學校の如きは、遂に此の問題に向つて關係あるものにあらず。其の學科課程なるものを見るに、高等女學校卒業後三ヶ年を以てすと言へり。斯の如き豈に今の日本女學に於て大學敎育と言ふに堪んや。而も之ある何の新らしきとも、何の特別なるともあらざる也。女子高等師範學校、華族女學校、皆な如此き程度なり、幾多の宣敎師派女學校の如き、更に之よりも高し。もし今にして眞女子高等敎育の爲の新機關を設け

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

んとせば、高等女學校卒業後三年の學習を爲したるもの丶爲に向つて設くべし、即はち日本女子大學校の大學科程と稱するものを卒業したるもの丶爲にこそ設くべきなれ。然らずして尚ほ此邊の設備に止め、尚且つ寄宿舍制度に力を盡さんとするを聲言するに至ては、吾人遂に其の大學敎育の爲に勞せんとするや否やの眞意を解する能はず。凡そ斯る低度の課程に名けて大學部と稱し、而も之を以て時勢の度に應じたる者と揚言するに至ては、寧ろ今の女學を悔辱するもの也。女子高等敎育問題の爲に信切なるものにあらざる也。願ふらくは當局の委員速かに其の非を覺とり、其の未だ着手せざるに先だちて早く學則を一變せんとを。

婦人の修養に就て（中）

青柳有美

（第四）**手練手管を學修すべき事**　世の中には隨分馬鹿な男があッて（さればとて私は大して賢しいといふ譯でもないが）藝者や女郎に所謂ハマリ込んで是等の玩具となり、身代をも名譽をも犧牲にしてしまふものがある。此る場合に於て其夫を恨みその男を責め罵るのが、女や妻たるもの丶普通の人情だ。然し、私は、暫く其男その夫を責めたり恨らんだりするのをやめて、このところ寧ろ却て、その女たり妻たるものが自ら大に省るべき時機であると思ふ。徒に人を責むるを知りて自ら省るを知らざる如きは、心ある女人淑女のなすべき行ではない。夫たり男たるものが此く怪しき女の虜となりて這れに現をぬかし此くまで打ち込むに至るには全く原因のあることで、つまり女の不行屆から來るのだ。自らの不心得で以て此く男を過まらせる樣にして置きながら、これを恨むなどとは實に沙汰の限である。一躰男のところをして自らを捨て丶他の女に心を移させるなど丶は、實に女子として不面目この上なく、自らの無能と意氣地なきとを表白するもので世間に對し天下に對し申譯のない次第ではないか。何も賞めたことはないのだ、大に恥づべく慚愧に堪えないことであるのだ。然るに、それを獨り男の罪にのみ嫁して、之を責むるのを女子の見識で丶もある樣に心得違をして居るとは、實に情けないとである。矢張りこの弊も少し本を讀んだ女學生あがりの方々などに多い。充分に御注意を煩はしたい者だ。男

子が何故に素性も知れぬ様な舞姫や歌ひ女將た女郎などに打ち込んで、かく心魂を奪はるゝ様になるかといへば、これは全く一般素人の女が學問修行が足りないで、甚だ不行屆なところがあるに反し、黒人の女たちは充分の苦勞を嘗め學問修行を深く積んで來て居るからだ。學問とは、或る淺墓なる人々の考える様に本を讀むといふことではない。本を讀んだは本を讀んだで決して學問をしたとはいへぬ。然るに、少し角い文字を讀み算數科學のことを覺へ、横文字の一二冊も廣ろげて見れば、天晴れ自分はエライものにでもなッた様に思ひ込み、天下の事與みし易しと意氣捲いて見るが、人情の曲折といふものは仲々に復雜なもので、そう學校から出たてのお孃ッちやんの腕のまに〱行くものではない。些かばかり本を讀んだために、隨意に人間を操縱し社會を動かして行くことの出來るものならば、結構なことだが世の中はそう簡單なものでないのだ。學問とは人間と天地との實相に感通することである。然るに、素人の女はこの本當の意味に於ての學問をして居らぬから人情に關する智識が乏しくッて、男を如何に取扱ッてよいか、全く其術を知らぬ。則ち惡るく使はれて

居る言葉ではあるが、所謂手練手管を覺えて居らぬために、男たり夫たるものゝ要求するところを滿足せしむることが出來ぬのだ。男が女に就て得んとするところの大部分は先づ慰安である快樂である。このところの消息を藝者の方々なぞは多年の經驗から能く飲み込んで居るから、巧に拔く手差す手の手練手管で、男を悦ばせ之を操つることの出來るのだ。是に於てか、男子は勢ひ其妻を忘れ子を忘れ自らの破滅をも厭はず、我れを悦ばす方の女に夢中とならざるを得ない様になるのだ。藝者の方々なぞが此く其術を會得するまでには、非常な苦心と經營とを經るものだそうで、決して一朝一夕のことではない。極々幼いころから姉分のものなどに煙管で叩かれたり、責められたり、何れもヒドイ目をして皆な練り上げて來るのである。甚しきに至ると大なる鏡を前に立てゝ、猪口の出しかたから眼の使ひ方、さては微笑の作りかたまで研究して、深く活人情に通じ活學問をするを心掛けて居るとのことだ。これほどの苦心と勉强とを重ねて居るから、男のこれに迷ふのも全く無理ではない。何も娑婆の波を知らないで、ポンヤリ生れたまゝに育ッて來た修行の足りない女など

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の、これと競爭して敗れを取るのは、實に當然のとなのだ。因りて、これからの婦人たり妻たるものは、一二冊の本を讀だ位と、其の『妻である』との名目とを楯にして安心する様なことがなく、充分この抜く手差す手の手練手管を學修し、活人情に通じ活ける本當の學問を爲て、藝者の方々などと實力上の生存競爭をしても、一歩も讓らぬまでに其腕を研きあげ、男をつまらん者の玩具にして、其名譽と財産とを犠牲にさする事などのない様に注意もし心掛けもせねばならぬ。手練手管といへば、これまでは藝者か女郎かの專有物の様になッて、甚だ卑むべきものとせられて居ッたが、決して此く卑むべく惡むべきものではない。誰れでも女たるものゝ皆な學修して置かねばならぬことなのだ。これあるを以て、始めて能く男子が女子に就て要求するところを悉く滿足せしめ、これに平安と快樂とを與へ、その職業に勤勉ならしむることを得るのだ。故に今日私が諸君に御勸め致したい第四義は『手練手管を學修すべき事』である。

其處に至ると、西洋の女などは仲々感心なもので、たゞに本を讀むのみならず、人情に處する手心を餘程研究して、活學問活人情に通じ、男子を悦ばせ男子を慰め男子を操縦する術を能く心得て居る。一例を擧げて申せば、少し女役者の出來損ひの様な女ではあるが、この秋田にも來たとのある宣敎師でリヨツクといふのは、色々込み入ッた事情から私が恨みと惡しみとを持ッて居ッた人だ。かく恨んで居りながらも、職業上の關係からして、一日イヤとは思ッたが遂に訪問してみた。ところが其手練手管殊には眼の使ひ方のうまいために、私は巧に操縦されてしまッて、行く時には恨みの感情を持て參ッたが、歸る頃には全く此る冷い感情を打ち消されたのみならず、再び訪問して其顔を見たいものだといふ様な温い觀念を持て、其家を出て來た。その後三四度遇ふうちには、向ふの方略も解ッて能く機先を制することの出來る様にはなッたが、その技量と人情に所する道のうまいのには全く感服した。獨逸などでは十六歳まで殆んど人と交際もさせぬ程にして、嚴重なる家庭敎育を施すそうだが、滿十六歳に達すれば、寺に於てコンフアクチオンとかいふ元服式の様なものを執行して、それより男子と充分に交際をさせ、また數々演劇などを見物に遣り、人情に關する智識を得ることの出來る様

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

にし、結婚しても些かマゴツクことのない樣に、男たり夫たるものを操縱することの出來る樣に、充分修行さするさうだ。我が邦の女子は、如何にせん昔よりの固陋なる弊習により、此る活學問をして居らないでムクの儘結婚するのだから、折角の男を取られる樣な譯になる。既に女たる以上は眼使ひでも何んでも充分やれるほどにならねばならぬ。何も恥づべきことではないのだ。

なほ序でだから申して置くが、日本の女は凡て衣服の縞柄や模樣を撰むことなどにも大變下手だ。先づその縞や色合などを撰む時には、その色その縞模樣が自分の顏姿の格好と色とに如何なる配合を取るか、果して能く似合ふか將た似合はぬかといふことなどを考へないで、直に其縞その色その模樣の絕對の是非を定めて、之を撰擇し樣といふ氣になる。これは實に甚だ愚にして且つ拙なる話だ。着物の縞柄や模樣や色合やなどを撰むには、物それ自身が有する絕對の醜美を考ふるをやめてよく釣り合ふや否やといふ我れに對する配合の如何を先づ第一に心掛けて頂きたいものだ。能くこの所に氣をつけて似合ふものを着る樣にすれば、同じく七十五錢出して一

反の浴衣地を買ッても、大變に見榮えがして來る。これが即ち本當の經濟といふものではなからふか。然し、こんな事に注意して氣を配ることは、大變にメカすとかシヤレるとか思ふて自分ながら氣の引ける樣に考えて居る方々が御婦人のうちには多い如くに見受けられる。これは非常な謬りだ。何も恐れることはない正々堂々とシヤレるがよいのである。是れは金錢の利用といふもので、決して不德ではない。シヤレて人を悅ばすのは是れ寧ろ女たるもの丶義務であるのだ。

また今時の日本の女の姿といふものは、甚だ麗しくなくッて實に不格好この上なく猫背でそうしてグンニヤリと曲つて居る。是れは昔の樣に今の女は踊りを仕込まぬから此く姿が悪いのだといふことだ。さればとて踊りといふものは人を過激に刺戟し極端に走らしむる性質があッて、色々弊害も生ずることが多いから、今之を一般の女に仕込ませる譯にもゆかぬ。故に、御婦人方は茶の湯を凡て稽古する樣にしたらよからふと思ふ。茶の湯の稽古といふものは、（自分も近頃少しやり出して大に得るところがあるが）大變に人の態度を定めて姿を美はしくするものだ。その効は全く踊りをやッたと同一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

で、しかも踊りの様な弊を生ずる恐れはない。且つ『茶の湯カブキ』といふ様なものが其中にあッて味覺の發達を計る工夫なども出來てるから、料理の鹽梅などをするためにも、非常の便利である。然し無論その教授法は改良を要するので、私にも意見がある。今日は申上ない。（以下次號）

●各府縣高等女學校師範學校女子部寄宿舍取締類別表（承前）

拾三應接の監督法

一、舍監立會フコトアルモノ
新潟（師）　群馬（女）　靜岡（私女）　福島（師）　宮城（師）
岩手（師）　秋田（師）　京都（師）　京都（女）　奈良（女）
廣島（私女）　山口（私女）　香川（師）　愛媛（私女）　久留米（女）
小倉（女）　長崎（師）　熊本（私女）

二、應接處ヲ舍監事務室トスルモノ
熊本（私女）

三、應接處ヲ舍監ノ隣室トスルモノ
栃木（女）　宮城（女）　福井（女）　京都（師）　富山（師）

四、特ニ夜間ヲ禁スルモノ
千葉（師）　岩手（師）　島根（女）　京都（女）　山梨（師）
福島（師）　秋田（師）　和歌山（師）

拾四信書往復の監督法

一、單ニ舍監經由ノミノモノ
高師　新潟（師）　山梨（師）　島根（女）　德島（師）
小倉（女）　久留米（女）　熊本（私女）　鹿兒島（師）

二、其ノ上帳簿ニ記載スルモノ
千葉（師）　群馬（女）　栃木（女）　靜岡（私女）　福島（師）
宮城（師）　岩手（師）　秋田（師）　京都（師）　奈良（女）
福井（女）　富山（師）　廣島（私女）　山口（私女）　香川（師）
愛媛（私女）　長崎（師）　佐賀（師）

三、舍監立會開封セシムルモノ
千葉（師）　群馬（女）　靜岡（私女）　秋田（師）　奈良（女）
香川（女）　廣島（私女）　德島（師）　愛媛（私女）　久留米（女）
長崎（師）　熊本（私女）

四、父兄ヨリ往復人名ヲ豫メ届ケシムルモノ
千葉（師）　山梨（師）　京都（師）

瀧頭餘感

大終有望《五》（前四章ヲ欠ク）

奥　邃

敢て問ふ、天諄々然として子を導く歟、曰、上帝、標準を以て我に指示し、隱すある無く貫かざるなし、是れ宇宙の公共にする所の者、惟一にして無二、既に言ひし所の如し、此を外にして目的を立る者は道に反する者也、天に違ふ者也、然らば則ち所謂標準如何して子に示す、請ふ之を益言せよ、曰く、其榮光と火德とを以て我をして天道に樹たしむ、所謂天道に樹つとは、奮然興起警醒して沈靜の德に磐居し、精神浩浩として穹宇に流通し、而して天下の心情に感じて以て其憂樂を同ふするを謂ふ、若夫れ其情之態は則假令天下の憂に先て憂ふる能はざるも必す天下の樂みに後れて樂み而して其樂みや衆と偕にするに非んば必す樂まじ、啻だ一不義を行ひ一不辜を殺して天下を得るを爲さざるのみならず又天下の貨財を天下に裒めて而して厚く天下の生活を天道に均齊し、一民

も其所を得ざる有なく、凡そ在地の者をして好合歡樂する在天の喜びの如ならしむる者也、而して其之を爲す所以の道は又天下靈形の中心に復て必先其方針を亳釐の本に正ふするに在り、之を信じて疑はじ、而して己れの成敗は一に皆之を天に聽く、是を道に於て樹立すと謂ふ、所謂標準は是を以て之を我に示す者也、宇宙に隱すなく、顯微を貫かざるなし、但だ罪惡之に背くのみ、嗚呼予若言はずんば則已む、之を言ふ、然らざるを得ず、然らずんば則自ら罪を重ぬるのみ、我何ぞ自ら欺くを爲んや、何ぞ況んや人を欺くに於てをや、何ぞ況んや天を欺くに於てをや、

故に我にして爲す所有らば則標準之を使むる者也、能くする所有らば則聖靈之を通ずる也、天也、道也、畢竟我に非る也、我は猶ほ人の如し、其異なる所の者は抑或は我か性質の惡にして罪惡の深き所歟、然り而して猶然る有を得る者、亦因て以て天愛神恤の徧ねからざる所なく、天德の至善人を以て人を治め改て止むの極能たる所以を窺ふに足る也、天道は平寧にして勝つべからず、罪惡の終に善德の滅す所と爲りて而して人格の再生更新を得る者誠に明々也、

或問

或人來て云く、今ま傳ふる所露人北清に於ての暴行虐殺子既に之を聞く歟と、被問者慘然として答て云く、噫、果して然らば、是誠に言ふに忍びざる也、

敢て問ふ子更に感有る歟、曰く、顧ふに日清戰爭の末に西方に於て東洋の大難を預言せし人有、近時支那の暴動、及び彼の虐殺等を以て之を觀れば其言應ぜし者有が如し、然り而して恐くは未だ其終りに至らず、抑て此れ其初端ならんか、今其時と狀と果して如何を知る能はずと雖も、黑色依然と懸りて東方に在り、其大難の來るは得て禦ぐべからざる者に似たり、禍ひなる哉此の民や、生れざるの勝るに如かず、

曰く、何の謂ぞや、曰く、大抵人生れて世に在る、罪惡に陷らずんば則迫害に遇ふ、而して若し自ら苦むに非れば則多くは災を人に遺す、此れ姦惡禍害の世に非ずして何ぞや、公私中外貧富貴賤なく、世界の事は言ふに忍びざる也、而して今ま傳る所虐殺の如き、罪惡貫盈噫何を以て之を譬へん、故に當今の時は人生れざるの幸なるに如かず、蓋し時未た至らず、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

今生るれば必ず迫害に遇ふ、而して不慮の事多に居る、人道を尊ぶ者宜く天德に於て深く愼みを此に致さざるべからず、是れ柔軟の言に非る也、

敢て益を請ふ、曰く、嗚呼禍ひなる哉東方や、其基せる者遠くして且久し、大難の來る今ま政略を以て永く之を轉ずべからず、兵勢を以て堅く之を防ぐべからず、人智を以て善く此を謀るべからず、將に來らんとする者必ず其道を通ふして而る後ち止む者也、

問ふ然らば則我れ將た如何ん、曰く、亦只天道に於て標準に從ひ、精神を凝集して以て公義を行ふ而已、而して其之を爲す所以は則忠誠謹愼、人道を崇尊し万民を人視し而して其公情を天下に通達せしむるに在る也、

何をが万民を人視すと謂ふ、曰く、請ふ姑く之を置け、夫れ今の世は猶昔しの如し、唯だ『文明』と云者罪更に大也、我れ皷うつ、爾何ぞ躍らざる、我れ利を務む、爾何ぞ從はざると、是れ一般の狀態、利に悪む所の者は其天下に公ならざるが爲也、今の務を爲す者私心を以て公感を察し、私智を穿て公明を窺ひ、私黨を結で公會を障し、私略を抱て公事を謀る、

之を國際に通じ之を社會に達して滔々皆然り、甚きに至ては詐僞を振ひ强慾を逞ふして以て公路を法令の下に充塞す、而して所謂公民なる者をして日に私に慣て月に慾に長ぜしむ、理勢より此を觀る、世の益々降る亦宜ならずや、吾人若し自ら天道に溯り方針を其毫釐の本に正ふする能はずんば万里の謬妄に至れる社會をして終に歸順一致せしむる能はざる也、人となく國となく其眞望、一に唯自ら反りて之を其毫釐の本に正ふするに在る也、

曰く、天下の禍ひ我に中心するか、曰く何必しも然らん、我も亦自ら知らず、然に當今時其己れを知らざる者歐洲諸國尤も甚だし、彼等既に基督敎を以て國敎と爲し、口常に神名を稱し、王公より諸民に至まで殿堂に入りて其禮式に由り、聖書を家にして其言を唱ひ、而して自ら以て文明と爲す、而るに其平生の所爲と心謀とを觀れば果して如何ぞや、夫の頑石をして痛く地下に號泣せしむる者は歐人也、獨の如き佛の如き英の如き露の如き歐洲の雄國にして其士商工農眞に神に事へ道に從はんと欲する者能幾人ぞ、而して其道に從はんと欲する者は皆其國に容られざる者也、一敎に云、地獄の最卑下な

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る者は僞善者の居る所と、果して然らば、今ま僞基督國の相列する所亦想ふべき而已、彼の露人の暴行虐殺の如きは其國の罪、政府其政を得ざるに因る也、然り而して又復た其縁有り、蓋し當今の時敎會の其國政に關する者未だ露國の如き者あらざる也、其政府許す所は即ち其敎會の諾せる所の者、大事にして之を斷ずる皇帝に在と雖も而して其之を使むる所以の致動力は則隱然として敎會に存す、ゆへに其政府の罪は即其敎會の罪也、然と雖も基督敎會の國家の進退心身の善惡に關係する者獨り只、露國のみならず、嗚呼禍ひなる哉學士發利賽僞善者や、各其國を非道に誣ひ、其民を罪惡に陷しいれ。而して施いて万邦に及ばしむ、其爲す所を知らざる者天下豈に此より甚しきあらんや、

敢て問ふ基督敎の國家に於る其之を害する者有歟、曰く、基督敎は救世の道也、我れ此道に於て能く世を救ふ、是れ基督の徒也、基督敎は世を害する能はず、但違背の敎會之を害す、僞飾の敎會之を害す、自尊の敎會之を害す、聚集の敎會之を害す、基督の道は善く人を救ふ、之を害する能はず、其敎たる、簡易にして明白、即ち億兆相愛の人道に緣因して以て天地婚媾の神旨を成達せしむる所以の者也、苟も邦國にして此道を信ぜば、奚んぞ能く其民を導くに榮光の示す所を以てして之をして能く愛敬矜恤の心を養ふと無らしむるを得んや、今や然らず、故に大勢を以て之を觀れば天變地妖必す天下に至らん、而して人災の伴ふ數推すべし、然に我れ善の必す終に惡に勝つを確信す、此れ復た消極的論に非る也、

曰く、前に所謂万民を人視すと云ふ聞を得べき乎、答て曰く、人とし視るとは、之を物とし視ざるの謂にして、即ち其天爵を已れに體して隱顯の感情を愼み、思想を眞實に潔ふして同胞の人格を貴び、而して厚念深愛以て相偕に善に遷るを謂ふ也、其罪惡と戰て之に勝つ所以の機能誠に實に此に緣る也、然に今の人率皆其人格を貴ばず、是を以て中心其同胞を視る或は動物の如く、或は雜物の如く、或は財産物の如く、皆己心の品位に從て之を視る、即ちその間才識有者然かく此民を賤視せずと云ふと雖も而も天道を信ずるの弱くして人格を認むるの薄き、竟に相尊崇して以て偕に愛し互に養ふの道に於て其當に然るべき所を盡す能はざる也。

客端を改めて問ふて云く、彼の露清の密約は如何と、問はるゝ

者曰、過日予既に之を言ふ、若其實にして露の政府取て以て施行せんとせば則之に對し吾人只積極的問有而已、夫れ理義の在る所は簡易にして得る者、故に我れ拙速を貴で巧久を貴ばず、拙速を貴ぶとは速に之を行事に斷じて而して巧言便佞の交を剪除するを謂ふ、我に活道有り、我が精神茲に樹つ、(此無くんば事爲すべからず、)先づ和戰を此道に決して列强と偕に露に對し其所爲の義に非るを問ふ、若列强にして我と偕にするを肯ぜずんば我れ獨り往く、我れは則和戰を和戰の先に決する者也、

曰く、彼の條約何を以て非義と謂ふ、曰く、其條項の若きは既に諸子の評を得たり、其心魂に至ては今茲に論ぜず、唯條約の國に關する者固より宜く政府其禮を以て之を公行すべし、露臣某將軍の密に結約し而して露國之を約すと曰ひ、露國如此處分すべしと曰ふべからず、則清臣に在ても亦之を諾するを得ず、彼等僭踰の罪兩政府宜く罰せざるべからざる所に在り、且つ列國の支那に於る聯合を以て事を初めぬ、義宜く聯合を以て之を終ふべし、當時列强兵を偃せりと雖も其協議猶未だ調せじ、平和未だ全く成らず、如此の際露國先つ自ら離れ、又密に清臣と國を以て約す、假令其他暴亂の行動姑く置て問はざるも、何ぞ其禮と義とを失ふの甚しき、

曰く、然らば則我れ何を以て露に說かん、曰く、道を以てす、我は將に此道を行はんとする者、故に權威道と偕に我に在り、彼にして其非を認め、改めて公共の道に從はば必ず和平を得て慶福天下に及ばん、若然らじ、我れ理義の在る所竭盡して而して彼聽かじ頑然と其過を遂んと欲せば則終に戰に及ばんのみ、是れ禍害の衆民に及ふ者有と雖も亦勢の已むを得ざる所、此より以上は先傳ふべからず、若夫れ任其人を得れば我が大議を決するに於てや一日にして足らん、夫れ天下性德悖逆して人格碎裂するに及べは、時に天變地妖無んばあらず、是れ形勢、數勢、理勢の當然なる者、如此の際豈に獨り人災有無きを保たんや、只だ國となく人となく、其之をして然るに至らしむる者其禍ひ尤も大ならん、予は則始終平和を以て主とする者、然と雖も天下平和の爲めに戰はざるを得ざるあらば則ち大に戰ふ、惡滅びざれば善繼ず、我標準に從て天命を奉ずるのみ、然に若當局者或は其人を得ずして其事に從はば則危し、而て戰を好む者は必ず失矣。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

義和團贊論

青柳猛

有美君曩に義和團贊論の言あり、深く歐米基督敎徒の無道を責め、支那の可憐なる國粹黨が爲に万斛の涙を濺げり。時正に獨逸公使殺さるるの以前にありき。君初め之を地方新聞の爲に筆して、新聞官を恐れて載せず、爲に時機を過てり。今や女學雜誌前號に英人某の論あり、今回亦た奧巡君の文ありと雖ども、其の時に於て先だつものは即ち此文とす。故に序を以て左に連載すと云爾。編者白。

義和團なる暴徒の一體あり、盛んに聲言して曰く、耶蘇敎會を盡滅し外國人を退去し終るに非ずんば止まずと。世の涙脆き人はこれを耳にするのみにして、切りに暴徒の度し難きを歎じ、在留外國人の助け少なく憐れ多きに泣き、耶蘇敎會の迫害せらるゝこと甚しきものあるに同情すべしと雖も、我れは、却て此くの如くにして三千世界の恨怨をその一體に集め、以て萬人の咀ひの中心たる義和團徒を憐まんとするものなり。我れは思ふ、惡むべく責むべきは彼等暴徒の一團に非ずして、却て外國人（日本人をも含む）にありと、又偏僻頑迷なる耶蘇敎徒にありと、殊に外國政府の權力を頼んで驕慢自ら悦ぶ宣敎師輩にありと。義和團の如き、寧ろ氣の毒なるものに非ずや。

歐西諸邦の各政府は、老大剛毅なる支那帝國が、その神經過敏ならず、象の如く些かの刺戟に動ずる色なきを好機とし、その奇貨おくべきに乘じ、各競ふて得手勝手なる行動を肆にし、何の權利なきに種々の口實を構え、しきりに暴戾なる權力を後ろ楯として、尺寸の地と雖ども、其領土に侵入し、以て利益するところあらんとあせり、獨は膠州灣を借り入れ、露は旅順口を手のうちのものとし、英は遂に威海衛に據れるに非ずや。而して、我が日本帝國の如きも、又僅に少數爲政家の利益と野心とに便せんとし、おこがましくも正義人道の名を借して無名の軍を擧げ、早く既に臺灣全島を割き償金四億兩を拂はさしめたるに非ずや。殊に老年の李大人をして態々媾和使たるの勞を自らし、はる〳〵この土に來朝せしめ、しかも之を待つに鐵丸を以てせるに非ずや。その無禮も極まれりといひつべし。

天豈に永久にかゝる暴慢を忍ばんや。凡て劍をとるものは劍にて亡ぶべし。血の己れによりて出でしものは、必ずまた其首に還るものなり。徒に人を苦しめ人を泣かしめ、我れ獨り

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

能く安んじ得らるべきものに非ず。人を惱まし人を責めしものは、又惱まし責めらる。支那民族、如何に其感覺するところ鈍しと雖ども、遂に起たざるべからず、劍を取りて是等の屈辱のために戰はざるべからず。抑そも義和團とは、即ち外國諸政府の此くの如き驕慢無禮に憤激して起れる血誠男子の團結が、茲に無賴の雷同者を待ちて、遂に黨を成すに至れるものならんか。今に至りて歐西諸邦の政府が、その外交官と國民との財産生命を危ふせらるゝものあるに驚き、切りに絶叫憤怒することの如きは、我れ殆んど其所因を解するに苦む。此くの如きはたゞ是れ猪食ツた當然の酬いのみ、其膠州灣を呑み、旅順口を呑み、威海衞を呑みし當然の酬ひのみ、天罰のみ。人は、我が北京公使館の書記生杉山某が、城外に於て殘忍酷薄なる殺害を蒙りしを聞ひて、義和團徒と大淸國官兵との野蠻暴逆なるを憎めども、焉ぞ知らん、これ曾て我が邦がおこがましくも無名の軍を起し、彼の地幾千百の貴重なる人命を犧牲にし、其寶血を流して彼れの領土を取り其財貨を運び來り、あまつさへ老躰の英雄を煩はしてこれに無上の侮辱を加へたるための天罰ならんとは、應報ならんとは。たゞ僅に書記生一人の殘殺せられたる如き、天刑の寧ろ我れに甚だ輕きものにして、日本國民が皇天上帝の恩慈寛仁に拜謝せざるべからざることとなりとす。今の世は道心危く人道墮落して振ふことなしと稱せらるれども、公義の善神なほ上にありて公道を司り給ふ。豈に權力の横行狼籍を許るさんや。怖るべきは因果と應報と、これに伴ふ天罰となるかな。此くの如くにして咀はるべき諸外國權力のうち殊に最も咀はるべきは、我が日本帝國なり。今日の騷擾を起せし所因のもの、我れを以て觀れば、其責や實に帝國政府にあり。その罪や誠に輕ろからず。日本帝國が、かの臺灣全島を割讓せしめて之を占有せしの一事は、遂に平和なりし東洋の天地に一大波瀾を起し、東洋に於ける列國の權力平均を亂さしむるに至れり。是に於てか獨逸はこの權力平均を恢復せしめんとして、勢ひ些少の口實により、膠州灣の地を占領せざるべからざるに至り、露國英吉利素より又これに習はざるべからず。故に以爲らく、日本政府にして、もし臺灣の割讓を強ひ東洋の權力平均を狂はしむるが如きことなくんば、遂に膠州灣旅順口威海衞の占領なく、隨て義和團の蜂起を見るの要なか

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

りしと。故に知る、義和團をして其野蠻力を揮ふに至らしめしもの、其眞因實に日本政府にあるを。帝國たるもの、その罪まことに重且つ大ならずや。然るを、なほ且つしら〴〵しくも義和團の暴戻を責めんとする、沒道理の限りといふべし。之れを譬ふれば、列國（日本をも含む）は、漫りに支那なる家宅に侵入して、掠奪を逞ふせんとする持凶器强盜の如し。またつまらぬ口實に喧嘩を吹きかけて、ユスらんとする賊徒の仲間の如し。この種の亂暴狼藉者の、到底論難說服の平和手段によりて卻くべからざるはいふまでもなく、自然の必要上、勢ひ之を干戈の力に訴へて相爭ひ相鬪たざるべからず。かの持兇器强盜は、これを防ぐにピストルと刀劍とを以てするも、決して罪に非ず。何れの國家の法律もこれを正當防禦なりとして敢て刑に問はざるに非ずや。義和團徒が、列國居留民を襲擊し、切りに殘殺を行ふことの如き、これ即ち支那帝國領内に於ける列國權力の自儘勝手を制せんとする正當防禦に外ならざるのみ。何ぞこれをしも責むべけんや。然るを列國民（日本國民をも含む）の、おのが醜惡を棚に隱して、義和團とこれを庇護する支那政府の非とをのみ鳴らさんとする虫のよさよ、殊に騷擾をして今日あるに至らしめし日本國民の、臺灣割讓を叫びし口の泡を拭ふて、これ等の非を鳴らさんとする虫のよさよ。宜なる哉、大淸國民が、歐米諸國の民を呼んで『洋鬼』といひ、日本人を稱して『東洋鬼』といふことや。然り、歐西の民は西洋の鬼なり、日本の國民は東洋の鬼なり。しかく傍若無人なる野蠻行動をなして、恬然省ることなき歐西人と日本人との如き鬼の如き民族には、之と談るに平和と仁義と公道とを以てすべからず、たゞ武力あるのみ。人あり若しロングフエローが作なるマイルス、スタンデッシユの言に聽かば、必ずや思ひ半ばに過ぎん。

茲に歐西の諸地方より、東洋に渡來する宣敎師といふものあり。中には非凡異彩の大人物ありと雖ども、その多くは己が一神敎徒たるを鼻にかけ、武力を後ろ楯とする公使領事を賴みとして、切りに異敎國民なる我等を輕侮蔑如し、無禮にも稱ぶに所謂ヒーゼンとて、羅馬市民が北方より侵入せる野蠻草莽の民に與へたる稱を以てし、これを人類と禽獸との間に位する一種の劣等動物の如くに觀るを常とす。このことや、我が帝國の領内にありて、なほ且つ少なからざるなり。況ん

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

や、支那帝國に於てをや。彼等宣教師の輩、かの中華の民族が、殊に恭謙禮讓甚だ忍辱の心篤きものあるに乘じ、そのヒーゼンたるを賤んじて、居常概ね驕傲に出で、侮慢以てこれに對せるや必せり。かの宣教師が數々殺戮せらるゝことあるも、これがためなるべく、必ずしも、其曲獨り頑迷なる支那人にのみありといふべけんや。またこれ等の不心得なる宣教師に傳道せられたるものゝうちには、自らその同胞兄弟たるを忘れて、虎の威を借る狐の如く、宣教師の力に隱れて放まに自ら高しとし、同宗門に屬せざる國民を蔑り賤んずるか如きことあるべし。是れ彼の義和團をして宣教師を放逐し耶蘇教會を盡滅するに非ずんば、止む能はずと聲言せしむる所因ならんか。

是に至りて思へば、徒に彼の徒黨の責め憎むべきのみを知りて、外國宣教師と耶蘇教會員との一部が、甚だ厭ふべく卑むべき擧動あるを默過せんとするは、蓋し得手勝手の最も甚しきものにして、至極の不公平といはざるべからず。聖バルトロマイ祭日の、殘殺を敢てせる耶蘇教會の子孫よ、爾曹は決して義和團の亂暴を責め罵るの權利なきものなり。されど又思へば、これ其佛徒たると切支丹たると、將た儒者たるとを問はず、誰人も犯し易き人類の弱點たるなり。故に以爲らく、憐むべきは義和團にして氣の毒なるは義和團なり、而して責め惡むべきは、外國人（日本人をも含む）と之れに直隷する耶蘇教徒なりと。我れを以て觀れば、かのアルメニヤ虐殺事件の如きも、全くこの義和團蜂起と其軌を一にするものにして、必ずしもマホメット教徒の亂暴狼藉にして人道を解せざるによるに非ず、彼の地の切支丹が、所謂文明の宗教なるものを鼻にかけ、一般同胞を輕視するに基せるものならんか。又、かの十字軍がピエール菩薩の赤誠熱心を以てして、なほ且つ成効の結局を見る能はず、たゞ僅にその副結果を以て滿足せざるべからずして、救世尊者の靈跡は、今尚依然として回々教徒の手中にある如き、蓋し十字軍の口實とせる處ハレステナなるマホメット教徒が基督教巡教者を遇すること、甚だ冷酷なりしといふにあれども、其實これらの巡教者が、自ら一神教徒たると、歐洲權力の其援護者たるとを鼻にかけ、これを輕侮するを悅びとせるより、その怨みを買ひしに因るものにして、全く無名の軍に過ぎざるため、正義公

道を司り給ふ善神の祝福を受くること能はずして、却て咀はるゝに至りしものなればなり。

故に謹んで義和團徒の一體に告ぐ。宜しく其精鋭を磨き、かの皮相の文明と曲解せる耶蘇教義とを楯として、傲慢不遜、肆に他國の領内に侵入し其民族を苦め侮らんとする諸列國と所謂耶蘇教徒なるものとの上に、一大打擊を下し、彼等が所謂野蠻力の如何に恐ろしく、ヒーゼンと稱せらるゝ人非人々種の、如何に輕しむべからざるものなるかを示し、物の見事に將棊倒しとなし遣すべし。昔は、秦王唐且を見て怫然色をなして曰く『公亦嘗て天子の怒を聞く乎。天子の怒は伏屍百萬里、流血千里なり』と。唐且直に其聲に應じて曰く『大王嘗て布衣の怒を聞く乎、若し士必ずしも怒らば、伏屍二人、流血五步にして天下縞素す。今日是れなり』と、即ち劍を挺て起ちしに非ずや。今や歐西列國と日本帝國との政府は、所謂耶蘇教國と文明國との怒を示さんとして、わせり騷ぐに似たり。これ當に義和團徒が、憤然としてヒーゼン國民の怒りの、如何に驚天動地のものたるかを、眼にもの見せんずくるべき秋に非ずして何ぞや。あゝ義和團の志士よ、揃つて戰ふべし、精鋭を盡くして進むべし。若し歐西の耶蘇教國にして、幸ひ之により深く反省するところあり、日本國また大に悔悟することあるを得て、秦王の如く相共に聲を合せ『寡人諭りぬ』と長跪拜謝するに至らば、是れたゞに歐西耶蘇教諸國と日本帝國との幸福なるのみならず、又實に人類世界の最大光榮ならずや。イスラエルの民を導ひてエヂプトの軛より救ひ出し、紅海の水を裂ひてカナンの地に到らしめ給へる萬軍の神エホバ、必ずや義和團徒の一體を祝し給はむ。

戀の歌

音覺の子

默ぐまんか　　堪えがたし
　談らんか　　言葉なし
たゞ押しつけん脣の我れにあるわり

恥かしや　　頰と頰
　抱かんか　　人目憂し
たゞ握りあふ掌の我れにあるなり

樂人ロッシニが事

無草庵 有美

『我れベートーフェンを彈ずること一週二回、ハイドンを手にする同じく四回、されど、モツァートに至りては、必ずや日として之を彈ぜざるなし』といへるは、我が樂人ロッシニなり。若しワグナルを以てベートーフェンが後を受けたるものとせば、ロッシニはまことやモツァートが流れを酌めるものなるべし。今の世こそ西も東も日耳曼音樂に悅び狂ふこと、猶ほ其怪しき哲學に醉へるが如くならんめれど、一たびは世を擧げて佛蘭西革命の煙に捲かれし如く、また佛蘭西樂に耽けれることともありき。かゝる間に出でゝ、陰府の底にまで葬られし以太利樂を起し、九天の高にまで揚げしもの、是れをロッシニとなす。而して、ロッシニは專ら歌劇の作に妙を得たる人にて、其『オテロ』と『ギロームテル』とは、永久へに亡ぶべきものに非ず。されど、わがロッシニの如く、世に優れたる惰けものも又あらざりけむ。狩野芳崖の、曾て毛利邸内壁畫の揮毫を依賴せらるゝや、大凡そ廿日ばかりが間、日々安倍川餅を食ふてたゞ臥するのみなりければ、友あり怪んで曰く『此くの如きは誠に羨むべきことなり』と。芳崖時に答えて、『筆を取らざる間こそ誠に是れ畫を作りつゝある時なれ。既に筆を取らば、是れ最早や畫を成せるの時なり』といひしとかや。ロッシニが胸中、また常にこの邊の心掛けありしか、容易くは作らず一日〳〵と延ばしもて行き、絕躰絕命遂に如何ともし難き時にまで及ぶなり。

旅し廻りて、所々に新しき歌劇を仕組み、これを演ぜしめてその指揮などし暮せる頃にても、早や約束せる開演の日間近なりといふに、新曲といふものには未だ指さへ染めず、其旅先なる地にて新らしく作りし友どもの、來りて共に晝食を旗亭にとらずやと勸むれば、唯々としてこれに隨ひ、たゞに晝食のみかは、夕食をさへ其處に取れば、こたびは更にシャンパンの廻はし飮となり、夢のうち現のうちに時の過ぎゆくをも忘れて、遂に曉近き頃となる。此る長夜の饗宴に、しばし我が大役の眼前に横はるに心留めざりし樂人も、今は朝

日の光り、ほの〴〵さし入るに驚き、遽に我れと我が氣に立ち歸り、あはれ一大事の起り出でたらんが如く、あはたゞしく急ぎ坐をたゝんとすれば、集れる友どもは又尾して共にその家にまで送るべしといふ。是に於て同勢五六、なほ草間におく露を履みしだきながら、朝霧に頭を包み、怪しき歌を聲高らかに唱ふること一齊にて、街の通を勢ひ勇ましく練りもてゆき、未だ華胥の裡より醒めざる市民の温き夢を驚かしなどす。既に我が宿に歸り、玆に一室に閉ぢ籠れば、天來の樂音は、忽然として其の耳に聞こえ、即ちこれを急がはしく紙の上に寫し留むるも、また暫くは棄てゝ顧みず。夜來の長飮放歌に、世の常の人ならば、その頭の調子さへ物狂はしく、朦ろなる醉眼に彼是のけぢめも、えわかぬべきに。さりとは、不思議なる才腦やな。漸く翌くる朝にも至れば、昨日しるし置ける紙の譜取り出でて、更にこれを調へ、折り返へし〳〵入り來る客のおひ〳〵に、こたびは樂器のうへに上ぼせ見などす。そのうちに、かねて定めし夜ともなれば、人々は界隈十二三里が遠路をさへ厭はで四方より雲集し、劇場は人波うちて破るゝばかりなり。我が作曲者は平然としてピヤノに就き、一隊の樂手を指揮整調すれば、遂に律呂の毫も亂るるものあるなし。この夜、その市なる何れの旅舍も皆な遠來の客に滿たざるなく、遲くれ走せなるものは、宿を借るに由なくて、劇場のまはりの天幕張れるがうちに、僅に假睡の樂みを貪るのみなり。

これも又その樂才の流るゝものありしが如き徵證にや、曾てナポリにありし時、埃及に於けるモーゼを歌へる曲なる『モーゼ、イン、エヂプト』といふを作りけるが、モーゼが將に紅海の波を裂ひて渉らんとする節のほとりに至り、思ひがけなき嘲笑の叫び、場の四方に起りて、首尾よく之を演奏し終ること能はざりしほどなれば、頭取め坐付き立作者も、今は全くに困りあぐみ果て、若しも其の海を渉るくだりの後とさきとに、イスラエル人のためにするモーゼの祈りを加へなば、全曲の神氣を或は振はし得もやせんと、之をロッシニに謀れば、これよしと俄かに寢衣を取り着更へんともせで、床のうちより跳ねあがりたるまゝ、一氣呵成、瞬きもせぬ間に一段の曲をものし終れり。この夜、これを先きの曲のうちに插みしに例の如く出でかけし嘲笑の叫びも忽ちにして讚頌の聲と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

變り、滿塲果して總起立となりしほどなりしとか。

またロッシニの天才驚くべきものあるは、その樂によりて遍く知られたるよりも、寧ろロッシニに近づき接せる人々が、その風貌の花を欺くもゝあるに動されて、互に我が樂人の名を傳へ擴めしに依ると言はれしほど、仲々に見め容の美はしき方なりければ、自らこれに誇りしは言はでもがな。又その諧謔に巧みなるをも切りに自負するを喜びにき。或る日、さる佳美人の、我れとかのウオータールーに名あるウエリントン侯爵との間に立ち居るを見、顧み笑て『世に榮多きこと卿の如きは、またと之れあるまじ、歐羅巴に於て類ひ少なき二大偉人の間に介在し給へば』といひしとかや。その英吉利に至れる日、時の皇帝ヂヨールヂ第四世陛下、優待盡さゞるなく、數々我がロッシニと腕を共にして、指揮臺の下まで玉歩を運ばせ給ふことだにありしが、樂人は、そを忝なしとも勿躰なしとも思はざりけん、これは或夜聖ゼームス宮殿に催されたる大演奏會の時のことなりき、早や豫定の番組も終りけれど、陛下は物足らずや思召されしか、なほ一曲を奏して後會を散ぜずやと、之をロッシニに謀り給ひしが、否な〳〵一夜の奏樂はこれにて不足あるべき筈なし』と無情にも言ひ放ち、一禮して其儘坐を起ち去れり。仲々のス子けものなるかな。

ロッシニの樂が、凡て修飾に富むものたるは、少しく斯の道に志ある人の、皆な能く知る所なるが、曾て『ベートーフェンけ巨人の如し、間々肋を之れに突き破らるゝが如き感あれども、モツアートに至りては、日夜拜崇すべきものなり』といひしは、能くも〳〵我が樂人の趣味を示せるものにて、歐洲の歌劇音樂をして、今日の如く調へるものたらしめしも、又ロッシニの力なり。これより前、歌劇の合奏は多く、絃樂にのみ止まりしが、ロッシニはこれに大小の管樂を伴はしむるを企て、甚だ能く成効せり。茲にその頃のテノル部歌唱師に、ヴェリユッテ井とて其名も高かりしがナポリスにあり、『ローレリヤノ』の曲といふロッシニが作を始めて歌ひたりしが、我が樂人の自らこれを聽ひて、殆んど己が作なるやに氣付き得ざりしまで、歌唱のうちに殊更らの修飾を加へしかば、甚しく怒りて遂に爭を二人の間に生じ、これより後ロッシニ意を決して、凡て其作する處には、自ら充分の修飾を加へ、如

何なる歌唱者と雖も放まに、之に手を下すべき餘地なからしめたり。このヴェリユッテヰに就き面白き話あり。曾てミランの市に一人の紳士あり、その父いたく病みて死に瀕するばかりなるに、一日平然として街頭に漫歩するを、その友の見しかば、怪んで『何處に行き給ふぞ』と問へば、『これよりはスカラ座に』といふ故、『されど、父上の煩ひ給ふて生命も旦夕に迫り居給ふに非ずや』と再び問ひかへせば、『そは實に〳〵誠なり。されど、今宵はヴェリユッテヰの來り歌ふを如何せむ』と答へたりしとか。また以て其人の、我がロッシニと共に、凡なる歌唱者に非ずして一世に超絶せしものたるを知るに足るべし。

ロッシニの生けるは、恰もバイロンの世に榮えし頃にて、ヴエニスのさる旗亭に共に相見しこともありといふ。その逝けるは前世紀の六十八年十一月の比なり。『以太利のモッアート』と後の人が稱べる複の名こそ、まことや其嗜好を品せしものなれ。

女郎花すみれたんぽぽうらがれて
たゝしげれるはしこのしこ草

評論

福澤先生の丁丑公論

福澤先生『瘠我慢の説』に於て勝安芳を攻撃し、『丁丑公論』に於て西郷隆盛を辯護せり。兩つながら是れ名文章にして情熱なきもの丶決して作する能はざる所ろ、先生必らずや何かの感激ありて茲に勃發したるに相違なしと雖ども、其の識見理辨に於ては根抵より誤まり、毫も正眼の着目なし。所云ゆる攻撃の急所を外れしたると共もに、辯護も絶えて心胸を穿たず。双方等しく先生に在るまじき程の惡論なれば、如今先生の墳土未だ乾かず、墮涙尚ほ之を濕らすの折柄、左して之を酷評すべきにあらざるが如けれど、或は懼る人偶たま之を先生の絶筆と見做し、誤まつて其惡作を鼓張するとなからん歟、是れ亦た福澤先生の爲に惜しむべき也。吾人が先生に惜しむの情眞實なるが故に、此如き舊作惡文章の速かに忘却せられんとを望み、敢て今亦た此の評論を爲す。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夫れ、福澤先生が西郷隆盛の爲に辯護する所ろ、條々層々至れり盡せりと雖ども、必竟、悉とく無用の辯たるに過ぎず。何んとなれば、西郷先生丁丑の事たる素と先生の本意にあらざれば也。然るに之を以て先生本意の趣構となし、以て一々其の理由を附解するに至ては、西郷先生たるもの之を聞かば反つて大いに迷惑に感ぜらるゝなるべし。

蓋し、十年の事たる西郷先生の關かり知らざる所、一旦事茲に至り機亦た奈何んともすべからず、則はち挺然身を投じて死地に入りたるもの歟。要するに先生の失敗にして先生の毫も誇らざる所ろ、安くんぞ後人の之が爲に尤もらしく理屈を附するを望まんや。丁丑の亂は、西郷先生の手落なり、仕損じ也、而して先生の先生たる品格は反つて此失敗の裏に顯はれたり。先生を見る此の涙の中に於てすべし、先生を言ふ此の敗れの中に於てすべし、之を曲解して初めて以て先生を揚げんとするは、英豪を語るの道にあらず。

福澤氏の曰く、西郷をして亂を起さしめたるは、其罪政府に多し。西郷の兵を卒ひて東上するは尤もの事なりと。嗚呼如此き論調をもて辯護するを聞かば、西郷先生たるもの何んぞ苦笑せざらんや。西郷先生は、大久保甲東等を相手として亂を起す底の局量の人なる乎。先生は亦た兵を率ひざれば東上すると能はざる底の薄弱なる人たる乎。たとひ政府、失策多く、滿廷の事大に改ためざる可らざりしと雖ども、兵を提さげて出でざれば則はち之を改革すると能はじと思惟する底の人物なる乎。嗚呼、福澤氏の西郷先生を見る亦た小なる哉、之れ豈に何の辯護ならんや。

丁丑の役、賊軍熊本城に迫る、樺山中佐屹然として之に抗し以て恩師西郷先生の本意となせり。時に實弟從道君亦た自から征討軍に指揮せんと乞ひ、以て家兄隆盛の本意となせり。嗚呼、二十餘年前の樺山氏たり從道君たるものにして尙ほ能く南洲先生の心を讀む斯の如くなりし、而して晩年大成したる福澤先生にして反て斯の如き歟、恨事何にか比せん。

夫れ西郷南洲先生に多しとするは、其の心靈赤情の眞摯にして洪厚なる、胸宇肚量の公明にして正大なる、献牲決死の大勇常に存して苟くも躬の爲にせざる修養の熟了せる邊にあつて存す。もし夫れ手腕技倆の之に伴なふや否やを問はゞ、倘未だし、思慮經綸の之に適ふや否やを問はゞ、倘ほ足らずと言

はざる可らず。故に其着手往々にして高眼靈想の趣く所に副はず、意至り情至り、氣滿ち涙溢れて而も其事の好結果を奏せざると屢ば之あり。もし利學々究の輩をして評せしむれば、先生は是れ一軍人なり一豪傑なり而も政治家にあらずと放言せしむる所以、こゝに存す。夫れ先生の事に臨むや如此き失敗あり。其の失敗は小事に於て尤とも多く、中事に於て尙屢ば之あるに關せず、大機大局に涉り、人情万古の道に係はる時、反つて大率ね錯誤逆背なき所以のもの、豈に人格の高大にして、品性の美なる爲にあらずや。假りに勝海舟先生を以て之に比較せば、其技倆、其手腕、其學術、其趣味、其の大成功、大好結果に於て、優に南洲先生に凌駕して尙餘りあるべきに係らず、人の情感に滿足し、人の理想に適應し、以て景慕禁ずると能はざらしむる吸引力に於て、海舟先生の反つて南洲先生に及ばざる所以のもの何ぞ。南洲は大醇にして疵あり、海舟は疵なくして醇に游し。其大意は南洲に於て高く、其修養は海舟に於て盡せり。海舟先生固より策爲人造の質にあらず、其期する所、其望む所ろ、感激不歧、一氣一純の至誠にあり。老子にして事を執らば則はち海舟先生たら

ん。先生固より事功の成るを以て眼目とせざりし也。而も其事に當るや之をして着々として成功せしめ得べき技倆手腕を有せり、而して先生の理想は茲にあらざりし也。則わち是れ、失敗多く智慧少なき西鄕氏に心服措かざる所以、何んぞ必らずや拘々して機事成敗の末に論ぜんや。西鄕氏は寧しろ生れ乍ら純醇にして自然に誠を具せり、其の平生に希望する所は反つて手腕伎倆の熟達するにありしならんと雖ども、心事相適ひ、智德相和するものにあらざれば、重んぜざるは固より也。斯の如くして其の理想的人物に海舟先生を得たり。海舟先生の熱誠にして而も手腕ある、象山に劣らざるの識學ありて而も象山に優るの實力ある、正に南洲先生が期する所に適へり、是れ其の海舟先生に傾倒して措かざりし所ならん。
故に若し海舟先生をして南洲先生の地にあらしめば、蓋し南洲先生の如き失敗はあらざりしならん。而も其の失敗あらざるに係らず、南洲先生が其失敗によつて反つて天眞の美と万古の人情とを顯現し以て後人をして醉慕せしめ得たる一種の感化力を發揮すると は能はざるべし。然りと雖ども、海舟先生をして策爲の人となすと勿れ、先生此處に至れば自から所策

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

を發す。其の發するや自然にして而して好結果を來す所以のもの、素と斷じて策にあらず。而も往々其の形跡を見めす多き所以、もと多智なるが故也、修養工夫の餘りに練熟したるが故也。

故に西郷先生が大局に臨んで大觀あり、危機に際して天湧の妙工夫を發すると屢ば之ありしに似ず、情義錯叉の時、はたと當惑し、存外に困迷し、速に万事休すと觀じ去つて、敢て之を逃るべき小工夫を思案せざるに方てや、潔然として身を擲うち以て人情の犧牲となす。初めには月照と相扼して水に投じたる、後には若殿原にかつがれて城山に打死したる、必竟此の故に因れり。以て西郷先生の究所、短所、愚所、失敗失策の所となすべし。而して西郷先生をして美なる人間、大なる英豪ならしむる所以も亦た此處に存す。

左れば、丁丑の事たる、必竟、先生の手落に過ぎず。初め先生大觀して引退し、隱に不平黨の首領となりて以て其の不平を沈壓す。甲東の朝に立ちて天下を治めたるも、南洲の野に屈して天下を慰さめたるも、所詮は一也。南洲先生斯の如くして次第に人心を融和し、次第に激氣を轉じ、以て他日他所の國用に獻ぜしめんとする時、大策、蟻穴より破れ、大機、一時に去れり。先生大隅山に獵して與からず、之を聞き慨然として長歎す。先生の心事既に早く決したる所以のもの、一には其の大觀の凡ならざるにより、二には其の行爲の凛潔なるによる。先生の軍中にあるや、未だ決して號令せず、未だ決して謀畧せず、只だ身を投じて衆少年に與へたる耳。海舟先生、之が爲に歌ひて曰く、

夫れ達人は大觀す　拔山蓋世の雄あるも　榮枯は夢か幻か
大隅山の狩倉に　眞如の月の影淸く　無念無想を觀ずらん
何を怒るやいかり猪の　俄に激する數千騎　勇みにいさむはやり雄の
騎虎の勢ひ一徹に　留り難きぞ是非もなき　唯身一つを打捨てゝ
若殿原にむくひなん

嗚呼是れ南洲先生眞知己の辯護なり。蓋し、先生固より征韓論の爲に憤ふるとなし、亦何んぞ、刺客の爲に怒らんや。門下の白眉村田新八、尤もよく先生を知れり、先生に言つて曰く、恐らくは勝安房來つて調停せんと。先生哄笑して之を否めり。嗚呼海舟氏も亦た一たびは謬されし也、而も時遂に可ならず、悲しい哉、調停は果して行われざりし。南洲先生初めより之を洞察し、洞察し得て而て身の死所を知れり、何んぞ必らずや努力して亂に指揮せんや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

丁丑の事、如此くして西郷先生不本意の結末となれり、而して其不本意の事の爲に甘んじて身を擲うち、何等の辯論なくして、莞爾として打死せられたり。此の辯論なきや則はち最上の能辯たり、安くんぞ福澤先生の代言を須ひんや。城山の露もろく散つて而して千古の珠となり、南洲先生の末期、賊名に甘んじて而して萬世の師表となる。曩にもし月照と同もに死せしめば、誰か西郷隆盛を知れる。後に八千の青年と同もに死せしめて、誰か南洲先生を知れる。

曩に「痩我慢の説」の評論を作するや、庶幾くは福澤先生の一讀を得んと期したりき、而して先生溘然として逝けり。後ち李氏が死の報ぜらるるを聞き、半は信じ半ば疑ふと雖へども其死を惜むと切にして之を哭すると甚しかりき。則はち大に之を痛みしに、今や反つて其然らざるを知り、欣然として祝す。當時亦た「丁丑公論」の出るにあひ、日々其の續出を讀みて完結を待つ千秋の如し、千秋漸やく了つて福澤先生既に去れり、今回の一文亦誰に見さんや。嗚呼人生の無常此の如し。

雑録

博士新渡戸稲造氏の演説

（二月十三日東京明治女學校に於て）（其一）

…………諸君は、私の顔を見るのが始めてだらうが、別に假面を被ッて來た譯でもなんでもないから、あいつに聞ひても、大抵覺えて居そうだと思ふことなら、何んでも問ふて被下れるがよい。私は元來百姓だが、甚だ怪しい農學者で、大根と蕪の區別位しか解らない……しかも、それさへ煮て食ッて見た上でなければ解らないといふ先生だ。しかし、それではモウ農學の範圍を脱してしまふ。それだから、農學のこと丈けは、御免を蒙るが、その他なら何でもよい、……ナニ知らぬことでもよい。知らないなら知らないで、その知らない理由を二時間位け話せるから……。

▲人あり問ふて曰く　日本の社會に於ける婦人の位置と、獨逸婦人の社會に於ける位置と、比較如何。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

▲また人あり問ふて曰く　歐米婦人の裏面は如何。

●博士答へて曰く　婦人の裏面……これは私は男だから、とても男だから解らない、また解るものでないと思ふ。女は仲々裏を見せぬ、若し見せても其れが表なのだ。ラフカデオ、ハーンといふ人は、餘程面白い妙な男で、名まで日本風に小泉八雲といふて、日本の婦人を妻にし、日本服で坐敷に据りこんで居て、私なぞが行くと却てマアお倚けなさいなぞといふ位の人だが、日本人のことに就て書いた本のうちで此人の書いたものは、一番よいと思つて居る……その人の書いたものゝうちに、日本の女に就て言ふてることがある――日本の女といふものは、百合の根の様なもので、これで結局かと思ッて皮をムクと、又その下に前と同じ様な皮がある。今度こそ結局だらうと皮を一枚ムケば、又前の通りの皮がある。何枚ムイてもその通りで、ムイてムイて能く／＼の末になッてから、始めて心のある所に達すると書いたが、これはまことなので、女といふものは、凡て何枚も皮を被ッてるのだから、これが裏面だなと思ッてゝも、實はそうでなくッて、表面なのだ。しかし、少し申上げやう。

これは、何人かが悪口にいふたことだが、獨逸の女といふものは先づ少さい時には、始めに幼稚園に這入る。それから十四五位になッてくると、ハイ子の詩を讀む。少し話が横道に曲るが――これは私の癖なので話さして貰はねばならん――ハイ子といふ男は、私は大嫌いだ……別に借金した譯でもないが大嫌だ。なる程その文躰は流暢に相違ないが、眞實なところがない、世を馬鹿にして、舌を出したりアカンベーでもして居る様なところがある。随分高尚なこともいふが、其仕まいになると、今まで言ッたことは皆なウソだよアカンベーとベロリ舌を出す奴だ。然し是れを好む人が仲々多いもので、かの凶徒の手に斃れられた故のオーストリヤ皇后の御殿などに行ッて見ると、ハイ子のために態々堂が建てゝあッて、殆んど拜んで居られたといふ位のものだ。それでも私はイヤだ、イヤ味があッてイヤだ。私は、前に文躰は流暢だといッたが、その文躰さへ、私は餘り好まぬ。たしか、ギリシヤの人だッたと思ふが、"Style is the man" といふてることもあつて、文躰はよく其の書く人の人格を現はすものだ。人の悪るいやつは兎ても立派なことが書けぬ、實にゲーテの語の如く、人の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

書いたものは、其の心の中を白狀してる樣なものである。ハイ子の人がらが惡るいから、文躰も素より惡るい筈だ。それで、私はハイ子といふ人を嫌ひだから、自然文躰もキライになる。あの男は、何事も皆な輕蔑して――世の中も宗教も己の心も皆な輕蔑して暮らして、實に眞摯シンセリテーといふものがない。その代り自分の一生も馬鹿な暮しをしてしまッたのだが、曾ていふたことがある。その言葉に……、私は宗教を信ずる際、始めには神を父なりと信じた――これはユダヤ的信仰であッたといふので、ハイ子は元來猶太人である――次には、神を子なりと信じ、今はこの考もヤメにして神を聖靈なりと信ずるといッた。大變立派に聞えるが、これも單に文字を弄するために過ぎないので、あまり讃めたものでない。兎も角しかし浮氣な詩が多いから、心の浮氣盛りな十四五の若い獨逸の女は、このウキ〳〵した人情を歌ッたハイ子の詩集を誦む。それから、二十前後になるとハイ子はやめてシルレルを讀み出す。シルレルといふ人は、まるでハイ子とは段がグッと上で、月夜に漫歩して月の詩を詠み、雨の戸をうつのに泣ひて雨のために歌ふといふ樣な神經家であッた。それで書くことが、凡て皆な高尙なものだ。それから、大變に愉快で私は極好きだ。そのラヴしてた女にラウラといふものがあッて、この女のことは始終詠じてあるが、實に高尙なものでそのラウラといふ女は兎ても骨と肉のある人間の樣には讀者の考えで思えない位だ。これをハイ子に書かしたら屹度キタナいものになッてしまふ。兎も角このシルレルを卅まで讀んで、卅から後になると今度はゲーテを讀むといふことだ。しかし、私は、既に卅を越えて四十に近いが、まだそうゲーテには遷れぬ、今以てシルレルやカーライルがよくッて、この時代に止ッて居る……實に卒業が遲いので、カーライルなどは既に十三遍も讀んだが、なほ面白くッて讀んで居る。でも、日本といふところは何事も早く卒業する人の多いところで、二三年前に讀んだ雜誌か何かにもあッたが、……カーライルなどは隨分若い時には讀んだ、しかし、今になッて見ると馬鹿らしくッてモウ讀みはせん……つまらん……解りきッたといふ調子だ。しかし、そう早く解り過ぎて飲み込みのよいのも、困ることだと思ふ。この種類の人は丁度……便所に這入ッて握飯を食ふてた男が、どう

せ飯は口に入れるも、つまりは下に出てくるものだから腸や何かの中を難儀して通すよりは、この方が近道だらうと、自分の食ふてた握飯をボタリと糞壺の中に落してやッたと同じことで、早いことは早いが、何も消化させないのである。嘗つて、或る獨逸人に、私は何故まだシルレルが卒業出來ないで、そこに止ッて居るだらうと話したら、それは結構なことだ、……それはお前にまだ理想があるからだ、ゲーテはシルレルよりは理想の低い人だと云ッた。なる程、ゲーテは百科の學問に通じて、科學上のことに就ても、色々新意見などを立てたほどで、詩文は素よりいふまでもなく、風彩も非常に立派であり、又貴族の家に生れて門閥もあり、何として備はらざるところがないといふ程だ。のみならず、小さくはあるがワイマルといふ國の宰相でもあり、政治上の技能もあッた。しかしたゞ品行が修らない。ところがその「たゞ」がたゞの「たゞ」でなく大變な「たゞ」である。……ゲーテは長生きのせいで、大變エライ樣に人々に思はれる。もしシルレルとゲーテを同年代に比較して見れば、ズッとシルレルの方が上なのだ。其理想の高いことは夥しいものだ。それで、つま

りゲーテは實地的なのである。兎角人は年を取ると理想がなく實地的になり、あアいふ人には何度の角度で禮をする、こういふ人には何度の角度で又禮をせねばならぬといふ樣な禮をする角度の工合を覺える樣になる……殊に日本の實地家には、これが多い。獨逸の婦人が卅になッてから後には、ゲーテを讀む樣になるとは、即ち理想は御免を蒙ッて、これからは實地の方だといふも同じことだ。故に、續ひて料理の本を讀み出し、常に割烹書を机の上に置く樣になる。然し、四十前後になると今度は女權論に關する書物を讀みだすそうな。これは、いくら亭主に御馳走してやッても、亭主は外に出るとビールばかり飲んで來て、うちに歸ると小言ばかりブー〳〵いふてるので、不平を感じて來るからだ。それから、五十位になると教育書を讀み出す。これは自分のためでなく孫のことが心配になッて來て嫁や娘を叱る手段にするためなのだ。さて、六十になると、ソロ〳〵彼の世に近くなッてくるから、今度は聖書を讀み出すとのことだ。以上は或る人の書いたものにあることだが、何分か獨逸婦人の裏面を示す材料にもならうかと思ふ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

▲或る男問ふて曰く　米國の男子は其女子に不平ならずや。

●博士答へて曰く　男子が不平だといふよりは、寧ろ女子が男子に不平だと思ふ。然し、玆に面白い話がある。これは米國の新聞記者で、フヰンクといふ人だが日本を旅行して、後にロータス・タイム・イン・ヂヤパンといふ本を書いて、その五章にこれは書いてあることだが、大變に日本の女を讃めて居る。或る夏の日にこのフヰンク先生、どッかの茶屋に行ッた。すると女中でおッたか藝者でおッたか、兎に角女が出て來て、一人は其着物を脫がせ、一人は團扇で煽でくれる、一人は茶を入れて接待す……實に生れてからコンな愉快なことはなかッたといッて居る。それから突然と……諸君……：と叫んで、我々は非常な失策をした、實に非常な失策をした、これまでの婦人を敎育した仕方は、實に其純良なる性質を變テコなものにしてしまッたと憤激して居る。なる程そんなところもあッて、亭主が一日黑くなッて働いてゐるのに、妻が家の中にソーファー安樂椅子に寢て居るといふ弊もないではない、しかし是れは稀れだ。なる程、米國の男で獨逸などに來て隨分ヒドイことばかりして、行くべからざるところなどにも行ッて居ながら、本國に歸ると何知らぬ顏して會堂に行き、人よりも一段聲高くして歌を歌ッたり、安息日學校まで敎えてゐるものなどもある、非常に一時米國で流行したエ・ヂヤパニース・ワイフといふ芝居にある樣な例もないではない、なんでも亞米利加では立派にして、生命の洗濯は外國に行ッてするといふ程で、凡て男は米國では女の前に小さくなッてる樣だが、別にこれで不平だといふ譯でなく、これは女を尊敬してゐるといふものだと思ふ。凡て夫婦の間柄などでも愛ばかりで尊敬がなければ、長くは續かんもので、二三日はよいが二三年たてば駄目になる、おれの亭主はクダラないよ馬鹿だよと思ッては、とても夫婦になッては居られない。そこで、女性の男性を尊敬することは容易だが、男性の女性を尊敬することは六ケしいものだ。然るに、米國では未だに女が不足であるし、それに殖民時代に女が不足でおッた爲に、非常に珍重がられた風が今に殘ッて女權が張ッてるから、女は尊敬せられるが、女の方が又實際進んでも居る。米國は御承知の通り實地の國だから男のうちで有用の才あるものは、皆な實業界に這入る。そこで男子には敎育が却て行き

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

屆かないで不足だ。故に、話をしても男よりも女の方が面白い、男が却て解らんのに女の方が東洋問題でもなんでも盛に談ずる。これは、家の中にだまッてるから、その間に雜誌でも本でも讀んで皆な勉强するのだ。こんな仕末だから、男どもはドウも自分らの話すことを解ッてくれないで困ると、女が男に對して不平を感じて、夫を尋ねたり何かするにも、さぞや、その男も不滿足で困ることだらうと思ふ。それであるから、自然夫を持たぬ女も澤山出來てくる。それだからとて、敎育の高い女は皆な夫を持たぬかといふに、決してそうでない。中々夫を持つものが澤山ある。これは、學問に於ては成程その夫を尊敬することは出來ないだらうが、その男たるもの丶男らしい高尙な品格キヤラクターを尊敬して夫に貰ひ、之を樂にしてやる樣に骨折るのだ。

寄書

山中獨語

迂拙翁

何を言たつて支方がない、無言は有言に勝るで、成る丈け默て、山中でも室内でも、ごしごしやる事があるから、兒戯に等數空騷ぎは、他の閑人に任せて、見て居るのだ、餘計の世話燒たとて、何にもならない、分るやつは幾ら迷はされたさて、遂には分る、分らぬやつは聖人賢者が血の淚をしぼる程骨を折られても駄目の皮だ、質に世は可笑なものだ、噂さに聞ば來年早々ヤソ敎の人々は大學傳道とか云ふをやらかす筈だそうだが、何ヶ月程騷で何の位ひな事が出來るものだと思て居るのか知ら何でも至誠腹中に充ち滿て夫れから堤を決するの勢で出てこそ本ものだがごうも皆い丶年をして居ながら只事を爲そうさ斗り焦る亦其反對で一つえらいものにならうさ思付て松村の話しなぞを面白がるやからも大分見へるようだが何も詰り功名心で六かしいいつの世でも兎角贋が多い本當の魂さ云ふものは得難いものだ今の人たちが自分で政治家だとか敎育家ださか傳道者だとか思て些さも怪しまないで居る樣子は餘程可笑なものだ士氣能く自ら省みれば仲々そんな度胸は容易に出ないものだごうも多くは自ら知らないだらうが一言すれば生意氣と云ふより他はない多くの傳道者さて尖張りヤソの後をぞろぞろ付て歩く群のようなものだ共に艱難を嘗め屈辱を甘んじて天に事へ世に盡さんなぞの眞情は昔も今も極はめて稀れな筈だ今の日本だつて仲々靈脫の高士が居るけれども世間が知らぬは當然だが何年も敎へられた門下の者が段々さ氣に合はぬ事があるさ自分の定規で勝手に恩師の評を下して離れて行く少しく勝れた人をさへ眼前に見出すとが出來ず隨ひ學ぶさ云ふとも出來ないくせに古今獨步さ云ふようなヤソの心が分てたまるものか、つまり多くは空砲隊だらふ、夫れでも背に驚て少しは目を覺す者があるかも知れないから騷ぐのは決して惡くはない併し一生そんな空騷ぎ斗りに屈托して死でしまふのも餘り詰らない事だ一番思量智術を廢し眞實面目に爲て好い加減に目を覺す工夫をしなければなるまいのに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

所感

河越愛花女

全能なる靈氣ありて、天地を創造し、樂園を地にもたらして、禽獸草木昆蟲魚介を供給し、爰に初めて人類の存在を見るに至る、抑ゝ人類の性たるや、衣食住居の法を知らず、職務勞働の何たるを解せず、性自純にして、おのづから悟りおのづから賴める無窮の上帝を崇拜し、万物に君臨して地上の全權を握れり、而るに一朝過つて惡魔の陷阱に陷入るや、遂に心靈の破滅をきたし、万有の主權を剝奪せられて永く貶黜の身となるの已を得さるに至れり。さて惡魔の誘拐は自由の濫用を導き、自由の濫用は靈魂の墮落と變して、爰に人生恐るべきの一大頓挫を來すや、世は駸々として旭日の登るが如く、新面目の方向に從つて發達進化し、智識あらはれて人は責任の何たるを感ずるに至れり、斯して月は進み年は歩みて世紀はたえず進行せり、人智は益々發達せり、世は夥多の幽玄なる眞理を發見せり、特に十五十六世紀の頃より現今に至る迄の光景は、能く筆紙の盡す所に非らず、然りと雖目を一轉して、爰に道德界に於ける人類の狀態を見よ、朋友相害ひ、兄弟相鬩ぎ、父子相訴へ、上は下を凌ぎ、下上を上とせず、人は人を尤め、國は國を奪ひて得々たり、暗中刄をふるつて盜を爲し、隱然暗を行つて恥させざる者の多き、何ぞ怪むに足ん、人誰か心に平和を求めざるものあらん、平和を求むるの人神を知らざるべからず、神を知らんと欲せば、常に其心を正くし、意を誠にして、道に遵はすんばあるべからず、道にしたがはざるの人神を見る事能はず、神を見る事能はざるの人如何に心神の平安を得べき、彼の歐洲全國を並吞して、意氣揚々たりしナポレオンの剛勁才智も、あはれ、孤島の一客と成つて、絕望落膽キリストの盛德を慕ひ、名望赫々たりしカルデナルウルシーも、其死に瀕して、吾わが君王に服從せし如く、熱心神に事へなば、神は如何で皤髮老朽の吾を見捨たまはんやと、絕叫せしにあらずや、嗚呼彼等は干戈を以て、能く世界に君臨するを知れり、頴智を以て人を獵するを知れり、然りと雖、其胸中の平安は、彼等が遂に領し得ざる所也、德義地をはらつて人道腐敗せり、國は虎狼の戰場となれり、家は惡魔の巢窟と變ぜり、人は罪惡の奴隷となり終れり、罪孕みて死を生む、人間遂に永遠の死をまぬかるべからざるか、嗚呼人生は旋風に飛散せる黃塵の如く、遂に分厘の價値なきか、否然らず、決して然らざるなり、人生は眞實なり、人生は確實なるものなり、吾人の心靈は全能なる神の形容に模型せられたる、尤も確實にして、尤も德義にとむべきものなり、神は嚴峻にして、一髮の罪惡も決して觀過せざると雖、其愛たるや洋々として天地に充滿し、万物を撫育してあます所なし、人もし己の罪を悟り、悔改めて道にかへりなば、如何で生命の岸に達せざる事あらん、見よ彼の古昔の志士仁人が、乾燥涙なきの社界にたちて、如何に至誠を實踐し、至善を躬行して倦まざりしかを、神は彼等に報ゆるに、千百歲の後に至るまで、人を欽慕措く能はざらしむるを以てせり、然りといへども、深淵の水は流るゝに音なく、優美なる花は往々草葉の下にかくる、人生の至善至美なるもの、常に繁華衆庶のあつまる所に非らず、高尙にして淳美なるもの、吾之をロングフエーローがビレヂブラックスミスの神聖なる詩句に見る、草廬低して竹籬破るゝの所、何物か能く彼が謙讓なる心を奪ふを得べき、何者か能く彼が温良なる精神を害ひ得べき、鐵槌の音風鞴の聲、終日軟風に散して、恰もアポロの妙なる音樂を聞が如く、日曜にして鳥歌ふの朝、彼は可憐の愛女が寺院に讚美の聲を聞て、そゞろ懷舊の念にたへず、天を仰いて泫然として神を稱る也、彼は人生の義務を研究せるに非らず、道德の字義を解せるにあらず、然りといへども心神常に平和にして、遠人を慇懃にし、其隣を愛し、同情溢るゝ彼が滿腔の涙は、嘗て吾等の神イエスキリストが、此世に於て、流したまへる神聖なる血の泉にも劣らざるべし、見よ彼のシヤーレメンがノンバードに於ける一大勝利の際、傲然としていたゞきし、有名なる鐵の冠を、見よ彼の合衆國民をして、欣喜雀躍太平をうたはしめたる自由の半鐘を、是等のもの、決してナポレオンの如き、將クロムエルの如き卓立勇者の手に成れるにあらず、只是賤業と笑はれ、微賤と嘲けられて徒に賤者の度外視する所となるブラックスミスの鑄造する所に非ずや、嗚呼貴きかな、彼が勞働の價値、偉ならずや彼が愛隣の涙、何ぞベーコンワットが著明なる發明に劣らんや、何ぞエデンの園の美妙なる花の露よりも貴からざるべき、吾等は德なくして道に遠く智なくして學に暗し、然といへども、吾等に負ふべきの責任あり、守るべきの義務あるをしる、見よや天は怒れり地は叫べり、人に眞善なし、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

仁義なし、忠信なし、溫柔なゝ、人の技あるを見、人の正しきを見て、寔によく之を容るゝの人幾人かある、人其友の爲に已の生命を捨つるもの何處にかある、否むしろ奸計之を陷阱におとしいれんとする世擧てゝかり、何か故に吾等は我等の生涯を、日となく月となく年となく、德性の修養智識の訓練にあたへつゝあるか、是毫も娛樂の爲に非らず、名譽の爲にあらず、將また社界の舞臺にたちて女權礦張を演せんが爲にもあらず、他なし人類心靈の亡滅を妨き、万有の主權を挽回せんが爲也、潜勢は肉眼を以て見る能はずといへども、能く機械を動かし滊車を運轉す、吾等の德性いまだ全からずといへども、われらの智識未だ及ばずといへども、是を家に施し社界に及ぼして、汲々倦む事なく孜々怠らざれば、いかで再び樂園を此世にもたらし得ざるべき、樂園とは何ぞや、昔祖先が悠々自適、万有に君臨せしエデンの園に比すれば、智は美はしき實をむすび、德は益々純潔にして、至善至美至德至導一點の蠹なく、汚なきの人類、裕々とゝて生命の冠をいたゞき、限りなき生命の糧を飽食しうるところなり。

思ふ事かきあへぬまに冬のきて

硯の水もこほりはてけり

伯林大學の女學生　今伯林大學に於ける女學生の數を見るに其總數三百七十一人内二百五十三人は獨逸婦人にして百十八人は外國婦人なり其内六十一人は露西亞より三十三人は米國より來學し其他佛國ルーマニヤブルガリヤは各二人墺地利瑞典并に瑞西は各一人を有せり而して更に之を大學別にすれば文科三百三十八、醫科二十七、法科二、神學科六名なり然れども之を米國の諸大學に比すれば其割合に於て女學生の數猶尠きが如し。

時報

英國女皇崩御　英國女皇ヴヰクトリヤ陛下は去る一月廿二日を以て崩御せられたり。御誕生は千八百十九年五月二十四日にして御即位は千三百三十八年六月廿八日なりと申す。寶算八十三在位六十四年その在位年數の多きこと佛國ルイ十四世に次がせらる。其アルベルト親王を女婿として迎へられたるは、御歲廿一の時にして其寡婦となられたるは、四十二歲にいませる時なり。その平生第一の御嗜好は御乘馬なりしと。

○湘煙女史の元旦雜吟　幾度か死を決して幾度か生を長ふし詩想愈〻隆んなる中島湘煙女史が、大礒王城山下に於ける病床の近什として世間に傳へられたるもの左の如し

如鶴瘦軀疑是仙。藥研窓底幾醒眠。春風倘未駈吾去。笑對梅花又一年。

やみてこそ大礒の春わか有たり

因斛蘇酒覺年回。瘦骨僅存心巳灰。庭上春風未吹到。一枝先發筆端梅。

きせらるゝまてしらさりし春衣かな

○島根縣女學校の紛擾　如何なれは此る所置に出でられしものか、島根縣に新任せる視學官某或る一派の人々の說に聽きたゞ一回參觀せるのみにて、松江市高等女學校長某氏に突然休職を命ぜるより、これに心服せる職員生徒一同監督官の所置を攻擊し同盟休校の有樣を呈せりと。引續き濵田高等女學校長も同一の休職を命ぜられ、これ又紛擾を釀せる由。

○關西鐵道の參宮婦人割引　關西鐵道にては參宮鐵道と交涉の上一月九日より十一日まで三日間大坂市内の各驛より山田に赴く婦人に對し大割引をなし三等往復一圓五十錢となせしと。面白き心づきよな。

○保姆傳習所の開設　東京神田橋東京府第一高等女學校内にては東京府教育會附屬幼稚園保姆傳習所を開設し二月五日開所式を擧げたるが、この所にては幼稚園の保姆たらんとするものゝみならず、母又は母たるべき人乳母若くは華族其他の家庭保姆たらんとするものゝ入學をも許すといふ。つまり小供嫌ひでない女は皆な入學の出來るわけなり。

○婦人の新年宴會　仙臺市にては市内在住の高等官連の婦人五十餘名さる旗亭に新年宴會を開き來會者は凡て一人一品づゝを携帶して福引の餘興などを催せり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○百十歳の老媼　千葉縣印幡郡酒井町字飯積さて成田へ一里半宗吾神社へ一里といふ所に左近りキなる百十歳の老媼あり己れより五代目に當るもの現時の戶主にて、自ら椽側に出で草刈の世話などし、非常に餅を好み酒も二三合位は傾くるさいふ。

○女子の叙勳に就き　寶冠章は從來勳五等までなりしを明治廿七年戰役に於て、看護婦等に授典する必用より勳八等までにせしも、爾來女官吏にして之を受けたるものもなかりしが、今回文部大臣より奏請せる女子高等師範學校の教師二名には叙勳の御沙汰あるべく、又華族女學校學監下田歌子の如きも、そのうちの一人に算えられ、宮內女官中にも其他に叙勳せらるゝものあるべしさいふ。

○新三大臣夫人の腕環　歐米の貴婦人が大禮服の一部に用ふる腕環は金剛石入の黃金にて高きは五萬圓より安くも三千圓を下らぬものゝ由なるが、此程我が新三大臣の夫人が新らしく作られたるは、各六百圓を出でざるものなる由。

○男女就學兒童の比例其他　文部省の第廿七回年報によれば、學齡兒童百に對する就學男生八十五人六厘、女生五十九人にして、就學女生增加の割合は前年度に勝ること五割三分なりさいふ。而して高等女學校の現在總數は、三十七校にして、生徒總數八千八百五十七名なりさ。

○女囚の三傑　女囚の三傑さは花井お梅さ楓田ノブさ蝮のお政さ仇名せられたる內田マサさのことなるが、共に市ケ谷監獄に服役中のところ、寒に入りての寒さにてノブは遂に肺結核にて斃れ、お梅はヒステリーにて毎日ノだらぬ事に氣を痛めてメソノヽ泣き、おマサもまたヒステリーにて少しのことに腹を立て他の女囚に喧嘩をしかけ、看守に暴行を加へなどするより、二人とも病室に送られノブ死去前までは三人同室にて、身の上話に笑ひ興じ居たりさ。

○貴婦人さ公園　澳國維也納府の衞生警察にて此程各公園の入口に一の揭示をなしたるがソハ公園に遊ぶ貴婦人方に向て着物の裾を長く地に曳くことなから先を求むるものにて其の文に曰く公園は市街の塵埃を避けんさする人々の爲に設けられたるものなるを以て官廳は長衣に由て塵埃の此處に掻き聚めらるゝを禁ずさ

○やつこ服　日本女優さして巴里交際社會に持囃され、彼處の夜會此處の婦人倶樂部より毎夜の如く招待されし貞奴は、夫川上の意見に依り、我國の美術的なる婦人服裝をば出來得るだけ紹介せんとにつさめ、常に黑模樣の紋付白襟に錦繡の丸帶を結ぶるなど、最も派手なる服裝をなして赴きしかば、彼女が道成寺の舞に驚嘆せし貴婦人逵は、其華麗にして優美なる打扮に一層渇仰の念を增しける結果、巴里婦人社會にては今回貞奴の服裝を本さして和洋折衷の夜會服を製り「やつこ服」さ稱へて之を纏ひ巴里新流行の魁けをなすさいふ。

隨　感

○英雄風雲の會

英雄風雲を望むの狀を喩えて龍に比し、一朝天地動いて則ち躍然身を起すの機會を論ず、古しえより其言甚だ慷慨にして其調至つて卑しきもの多き何事ぞや。夫れ英雄奸雄相岐るる所ろ眞に一歩、たゞ其事を好みて平地に波瀾を起すと、未だ初めより策爲せず、但だ已むを得ずして起つとの差別に由る。英雄亦是れ自然の文豪なれば、必らずや機緣の感激によりて初めて腕を揮ふ、其成す所ろ即はち活ける文章にして、千古に煥發す、素とインスピレーションに縁れるものにして、人爲の作成にはあらざる也。左れば、其の風雲を待つや、故さらに機會を待ちて初めて成さんとするにはあらず、只だ知らずして自然に待つもの、未だ初めより大有爲の經綸あるにはあらざる也。昔は隨園言はく、英雄もと大志なく、風雲の機會自然に其人に逼まりて終に經天緯地の事業を開創すと。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

や、吾思ふ所ろに近し。

○神明臨機、天地活動

天地悉皆美なれども、人凡べて之を識るとかたし、此に於てか詩人あり、其の尤とも觀やすきものを歌ひて美の一端を闢く、此窓開けてより人凡べて天地の美を窺ふ。万象悉皆美なれども、人凡べて之を觀るとかたし、此に於てか畵人あり、其尤とも著ちるしきものを畫きて美の一系を形はす、此の圖展けてより人凡べて万象の美を思ふ。豫言者の未來に於ける、哲學者の攝理に於ける、科學者の綱紀に於ける、道德家の天意に於ける、皆な其の一隅を闡明して大体を推思するの階梯をつくる。斯如くして、英雄は夫れ神明臨機、天地活動の秘義を形容するものか。

○日暮恨思

水の流るるに臨みては行く所ろを思ふ。雲の走るを望みては去る所ろを思ふ。鳥の飛ぶを目送しては逝く所ろ將た何處ぞと思ふ。煙の立ち上るを仰ぎては達する所ろ遂に如何んと思ふ。恨思綿々として盡きず、佇立して久しく還らず、父母遠く在らず、愛者去つて來らず、嗚呼吾か幼けなき時の山川亦いかに。古人吟ずらく、日暮鄉關何處是、煙波江上使人愁。

○眞個の英豪今何處にある

われ幼けなき時、武者繪を好き、軍さ人を慕ふ、當日の英雄眼中にあり。年少氣鋭、豪傑の傳に醉ひし比、快哉案を打ち夜半褥を蹴つて起つ、長虹の氣を吐きて英雄を吟ぜしと、今尚ほ眼中にあり。如今、英雄果して何處にある。春、枝頭に來つて、梅先づ薰じ、人未だ到らずして空しく長望す。然りと雖ども、英雄を思ふとは、活動を思ふとなり。英雄を慕ふとは、年少に與みするとなり。夫れ、悪名を辭せずして斷行し、自から獻げて公義に殉じ、足を公侯の冠に擧げて、頭べを神壇の塵に沒する眞個の英雄今何處にある。

○春風尚寒し

細雨何れの處より降れるかを知らねど、之に濕ほいて草青きを增せり。時すでに好けれと思ひて花枝動かんとすれば、春風尚寒くして凋ませける。蕾いまだ開かず、香り未だ立たず、黄鳥いまだ鳴かず、況んや其の餘をや。

○誰か李老が爲に思ふものぞ

齡ひ八十に垂んとして憂患彌いよ加はふ。一身輕く、國家輕

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

く、人其の重きを知るもの稀なり。前途茫々、たゞ死の近きと明らかに、同人落々、たゞ後の少なきを知る。大勢早く去りて、文明の意義轉回し、叫べども應ふるものなく、泣けども哭するものなし。則はち哄々笑つて大言し胸中密かに淚湛ゆ。悠々多く閑日月わつて、夜ことに長し。誰か李老が爲に思ふものぞ。

○女皇殿中慘絶の狀

英國女皇病ひ篤く、危機一髮につなぐ、殿中聲を發するものなし。皇子皇女枕頭にあり、獨逸皇帝亦た皇祖母を問はんとして來る。女皇僅かに御頭を擧げ玉ひ、皇子皇孫の手を握りて曰く、卿等もし朕を愛せば、英獨兩國長く干戈を交ふる莫れと答聲を聞かず、歔欷の聲を耳く。此時情至り、義盡し、大經綸成る。正に近代慘絶好絶の大事態。

○文士の經濟

古しえより文士事に當りて能く成すとの少なきは、經濟に疎ければなり。經濟とは、事實の制限、區畫の規律を要とし、之に順從服膺して初めて功を遂ぐべきものなれば、曠達開放脱然として情感理想の適く所のまゝに任せんとする人の多くは得て制せざる所ろなり。腦裏權衡あるときは激越少く、心中情熱あるときは平均を得がたし。文士の俗務に成功せざる所以は、一騎打の大軍に勝たざるにや比すべけん。

○文武兩道

文士、文を作る、一の大事業なり、何んぞ必らずしも事功に當てゝ而して後ち初めて足れりとすべけん。左れど、史を論じ、人を鑑し、成敗利鈍の跡に付いて達辨あらんとするものは、只た、文事の外經驗なきものゝ能く爲ざる所。朱子是れ一代の洪儒なりといへども、陽明に比して差ふ所ろ、蓋しこの邊にあつて存するもの歟。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治女學校受捐廣告

○信州長野市

金五拾圓　小出八郎左衞門殿
金五拾圓　今井忍郎殿
金拾圓　飯島正治殿
金拾圓　宮下一清殿
金三圓　鈴木小左衞門殿
金三圓　小林傳兵衞殿
金三十圓　辰野基殿

○信州中野町

金二十圓　擴益合資會社殿
金二圓　中野機業合資會社殿
金五圓　小野幾之助殿
金三圓　高木由作殿
金三圓　小田切彌兵衞殿
金三圓　小林万次郎殿
金三圓　細野富美子殿
金三圓　西澤平八殿
金拾圓　倉田左一殿
金一圓　須藤忠松殿
金七圓　三井七郎右衞門殿
金一圓　佐々木喜助殿
金二圓　小林繁野殿
金二圓　古田與一郎殿
金二圓　合資會社中野蚕業社殿
金五圓　合名會社日之出松社殿
金一圓　信州機業社殿
金一圓　市川林作殿

○越後

金三百圓　澁谷初次郎殿
金三百圓　新潟某君殿
金百圓　澁谷善作殿
金百圓　三輪潤太郎殿
金一圓　出本巖殿
金一圓　高頭倉吉殿

故若松賤子女史譯述

四版 小公子

全一冊洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵稅八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十百回、一代の流行を左右して、一時年少の子弟をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化す、傍に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐純潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を竄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及はずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝと切なり。即ち曩に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、郷友松井昇氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

大賣捌　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

女學雜誌第五百十三號

明治三十二年五月十四日第三種郵便物認可

（明治卅四年二月廿五日發行）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第五百十三號

明治三十二年五月十四日第三種郵便物認可

（明治卅四年二月廿五日發行）

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY